

横浜市の単身世帯の住まいの状況・ニーズ調査報告書
～シングル女性の課題を中心に～

2023 年 3 月

公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会

目次

I	調査の概要.....	3
1	調査の背景と目的.....	5
2	調査対象者の設定.....	7
3	設計.....	8
II	調査の結果.....	9
1	集計結果の見方	11
	(1)表記や数値について	11
	(2)図表と回答者区分について	11
	(3)その他.....	11
2	回答者のプロフィール	12
	(1)性別	12
	(2)年齢	12
	(3)職業	13
	(4)年収	14
3	調査の結果	15
	(1)月収と住宅手当	15
	(2)預貯金や金融資産.....	17
	(3)婚姻状態	18
	(4)現在の住まいに住んでいる期間.....	19
	(5)住まいの形態・建て方	20
	(6)住まいの構造.....	21
	(7)住まいの床面積	22
	(8)住まいの間取り	24
	(9)住まいの築年数	25
	(10)住居費の負担率	26
	(11)住居費の支払いについての負担感.....	30
	(12)住居費のために節約していること	31
	(13)新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化	32
	(14)新型コロナウイルス感染症拡大により、住まいに関して生じた影響	33
	(15)現在の住まいを探すときの家賃や初期費用・広さ・間取り以外の条件.....	34
	(16)自分の住まいや周辺で感じた危険や不安	36
	(17)一人暮らしをする際、防犯上、意識してきたこと	37
	(18)一人暮らしの住まいを探す際に断られた経験.....	38
	(19)一人暮らしについて家族や周囲から言われたこと	39
	(20)病気の時に頼れる相手	40

(21)ペットの飼育状況.....	41
(22)住まいについて困っていること.....	42
(23)今後の住まいについての不安だと思うこと	43
(24)住居確保給付金制度の認知と利用経験.....	45
(25)セーフティネット住宅制度の認知と利用経験.....	46
(26)単身者への住まいのサポートとして利用したいこと	47
(27)一人暮らしの住まいについて思うこと（自由回答）	49
III 監修者考察.....	51
監修者考察.....	53
IV 資料.....	55
1 アンケート調査票	56
(1)予備調査（スクリーニング調査）・調査項目.....	56
(2)本調査・調査項目.....	57
2 集計表.....	61
(1)回答者のプロフィール・集計表.....	61
(2)本調査・集計表	62

I 調査の概要

1 調査の背景と目的

近年、人々のライフコースは多様化し、シングル¹が増加している。2020 年の国勢調査によると、男女ともに「未婚」「離別」が増加し、有配偶者は減少している。男性の「未婚」者は 15 歳以上男性人口の 34.6%を占め、「死別」「離別」を含めると 42.6%がシングルである。一方、女性の「未婚」者は 15 歳以上女性人口の 24.8%を占め、「死別」「離別」を含めると 46.0%がシングルである。同調査を元に、国立社会保障・人口問題研究所が算出した 50 歳時の未婚割合²は男性 28.25%、女性 17.81%となっており、20 年前と比較すると男性は 2 倍以上、女性は 3 倍以上伸びている（2000 年の 50 歳時の未婚割合は男性 12.57%、女性 5.82%）。

シングル女性が増加する理由や背景として、女性の高学歴化や働く女性の増加など、女性のキャリア形成や所得上昇が語られることが多い。確かに、女性の労働力率は徐々に上昇しており、15～64 歳の女性の労働力人口比率は 74.3%にのぼっている³。しかし、女性労働者の半数以上は非正規雇用であり、この状況はすでに 20 年続いている。また、男女賃金格差は縮小傾向にあるものの、女性の賃金は男性が得られる賃金の 75%にとどまっている⁴。勤労世代（20～64 歳）の単独世帯（一人暮らしの世帯）の貧困率は、男性が 19.8%であるのに対し、女性は 24.5%で、4 人に 1 人が相対的貧困の状態である⁵。

このように、シングルが増加しつつある中、女性の雇用をめぐる環境は依然厳しいものであるとの認識から、当協会はシングル女性が抱える困難や課題に着目し、調査や支援事業を実施してきた。2008 年度には若年無業シングル女性の自立支援に向けた生活状況調査⁶を実施し、翌 2009 年度から働きづらさ・生きづらさに悩む若年シングル女性に向けた就業支援事業として「ガールズ編しごと準備講座」を開始した。2014・2015 年度には、派遣やアルバイト等非正規雇用で働いているミドル世代（35～54 歳）のシングル女性を対象に調査を開始し、これまで支援の対象者として光のあたってこなかった「非正規職シングル女性」の状況と支援ニーズを明らかにした。

この「非正規職シングル女性」を対象とした調査において、「現在、感じている悩みや不安」について尋ねたところ、「住まいについて」という回答が 44.8%にのぼっていた⁷。属性別にみると、一人暮らしの回答者は 52.0%と 2 人に 1 人が、住まいについて悩みや不安を抱えていた。また、同調査で「今後、利用してみたいサポート」について尋ねる設問では、「住まいの支援」を求める回答が 27.6%あった。具体的には「低家賃の住まい」「初期費用や保証人の要らない住まい」「家賃補助」「低収入の単身女性が安心して住める公営住宅」などの意見が複数寄せられ、居住に関わる支援ニーズが少なくないことがわかった。

¹ 結婚していない状態を指す名称は「単身」「独身」等があるが、本報告書においては基本的に「シングル」とする。

² 45～49 歳と 50～54 歳における未婚割合の平均値。

³ 総務省「労働力調査（基本集計）」2022 年（令和 4 年）平均結果

⁴ 厚生労働省「令和 3 年 賃金構造基本統計調査」によると、一般労働者の賃金（月額）は男性 307.4 千円、女性 253.6 千円で、男女間賃金格差（男=100）は 75.2 となっている。

⁵ 阿部彩「日本の相対的貧困率の動向：2019 年国民生活基礎調査を用いて」科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（B））「『貧困学』のフロンティアを構築する研究」報告書（2021）

⁶ （公財）横浜市男女共同参画推進協会『若年女性無業者の自立支援に向けた生活状況調査報告書』（2009）

⁷ （公財）横浜市男女共同参画推進協会ほか『非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査報告書』（2016）

ここで日本の住宅支援に目を向けてみると、勤労世代のシングルが利用できる公的な住宅支援はほとんどないといってよい。欧州など多くの先進国において、住宅手当などの住宅政策は社会保障制度の一つに位置付けられているが、戦後日本の住宅政策はもっぱら「中間所得層を対象とした持家取得がその中心」だった⁸。家族世帯を対象とした住宅ローン減税など持家取得に対する支援が重視される一方、日本における公営住宅の戸数は住宅総数の 3.6%にすぎず⁹、自治体の多くは 60 歳未満の単身者の入居を制限している¹⁰。また、先進国では幅広く行われている家賃補助の仕組みもない。これまで条件の厳しさからほとんど利用されていなかった住居確保給付金制度は、コロナ禍により条件が緩和され、幅広く使われるようになっているが、離職等により経済的に困窮した人が一時的にしか利用することができない。

日本の住宅政策を長年研究してきた神戸大学の平山洋介教授は、こうした戦後日本の居住の在りようを、「ジェンダー化された持家社会」と呼んでいる¹¹。すなわち、女性は結婚して子どもを持ち、夫の所有する持家に住み、居住の安定を得るという社会である。しかし、これまで見てきたとおり、人々の生き方は多様化し、女性すべてが「結婚して夫の持ち家に住む」という「標準コース」を歩むわけでもなければ、男性すべてが持ち家を所有し「一家の大黒柱」となれるわけでもない。

勤労世代のシングルに対する住宅支援制度がほぼない中で、シングル女性、なかでも一人暮らしの女性にとって、住居費は重い負担となっていると考えられる。平山教授は、単身女性は単身男性に比べて低い所得しか得ていないにも関わらず、より高い家賃を負担している点を指摘し、女性が「職場に近い居住立地、近隣環境の利便性と安全性などを求め、そうした要件を満たす住まいの確保のために高い家賃を負担する」傾向を指摘している¹²。

このような背景を踏まえ、シングル女性、中でも一人暮らし（単身世帯）のシングル女性が住まいについてどのような課題を抱え、どのような支援ニーズをもっているのか、その実態を把握する必要があると考え、当協会は 2021 年度、横浜市内で一人暮らしをする 15 人の女性にヒアリング調査を行った。その結果から見てきたことは、次の 7 点である。

- ・ 居住面積の狭さ 民間賃貸住宅（15 人中 11 人が居住）の平均居住面積は 24.1 m²で、最低居住面積水準（単身者 25 m²）を下回る。
- ・ 高い住居費負担率 平均 37%
- ・ セキュリティ・通勤利便性（立地）を重視するも、家賃負担との間で生じる葛藤。
- ・ 防犯上の不満、居住環境の不満（狭さ、設備等の劣化、修繕費の自己負担等）。
- ・ よりよい条件の住まいへの転居を希望するものの、経済的な理由がハードル。

⁸ 阪東美智子「住宅とジェンダー」『講座 現代の社会政策第 4 巻 社会政策のなかのジェンダー』、明石書店、(2010) pp.236-258

⁹ 総務省「平成 30 年住宅・土地統計調査」

¹⁰ 神奈川県は低所得の非正規雇用者等の生活不安が社会問題化していることを踏まえ、2020 年 11 月より 60 歳未満の単身者が県営住宅に申し込めるよう、神奈川県県営住宅条例等を改正した。

¹¹ 平山洋介「女性の住まいとライフコース」『現代思想』2013 年 9 月号 (vol.41-12)、青土社、(2013)

¹² 平山洋介『都市の条件 住まい、人生、社会持続』、NTT 出版、(2011) p.122

- ・ 住宅についての公的な支援が少ないことを「仕方ない」と受けとめているものの、「家賃補助」「良質な公営住宅」を望む声が多数。
- ・ 地域とのつながりが希薄で、近隣に頼れる人がいない。

以上のように、住居の確保や質をめぐる様々な課題や支援ニーズがあることが確認できたが、これが単身世帯の女性だけに生じているのか、それとも男性を含め広く単身世帯に共通するものなのかを確かめる必要がある。また、近年、男性学等でも指摘されている男性の孤独・孤立等の問題を含め、男性に特有の住宅をめぐる課題があるかどうかについても把握したいと考え、男性も含めた単身世帯を対象にウェブアンケート調査を実施したのが、本調査である。横浜市内で一人暮らしをする勤労世代がどのような住まいに住み、居住についてどのような課題を抱えているのか、またどのような支援ニーズを持っており、どのようなジェンダー格差があるのか、これらを把握することを、本調査の目的とする。なお、本調査では、親と同居する単身者（世帯内単身者）は対象としていない。

2 調査対象者の設定

先にあげた背景と目的から、2021 年度のヒアリング調査に引き続き、さらに詳細に単身世帯の住まいの状況や課題を把握するため、ウェブアンケート調査をすることとした。

調査の対象者については、以下の条件とした。

- ・ 居住地：横浜市内
- ・ 性別：全ての性別（男性、女性、その他）
- ・ 居住状況：一人暮らし（進学や単身赴任等に起因する一人暮らしではなく、世帯としても単身世帯）
- ・ 年齢：35 歳～60 歳
- ・ 仕事の有無：就労中（何らかの仕事に就いているが一時的に無職という場合は含める）
- ・ 年収：180 万円～600 万円（親からの仕送り、障がい年金等も含めた総収入）

今回、女性の状況を把握するためには他の性別との比較も有効と考え、全ての性別（男性、女性、その他）を対象とした。対象者抽出の予備調査（スクリーニング調査）では「その他」の回答者がいたが、横浜市外在住など対象者としての条件を満たさなかったため、結果的に本調査では「その他」の性別の対象者はいなかった。

年齢は、ヒアリング調査の傾向から、20 歳代については、就職に起因する初めての一人暮らしであることが多く、シングル女性としての課題が見えにくい可能性が高いと判断し、対象からは除いた。60 歳までとしたのは、一般的な定年退職の年齢であるためである。

仕事の有無について、就労中としたのは、何らかの仕事をしながら一人で自分の暮らしを成り立たせているシングル女性の課題に焦点を当てたためである。

同様に、年収についても、働く女性の収入として想定できる範囲の年収額を設定した。

3 設計

ヒアリング調査で得た知見を活かし、シングル女性の住まいの課題を幅広く考察するための設問項目内容を検討した。内容は多岐にわたり、27 項目となった。

自由記述回答は Q27「一人暮らしの住まいについて思うこと」のみであり、その他に、各設問項目中の「その他」を選択した場合は具体的に記入できるように設定した。また、Q22「住まいについての困りごと」についての選択肢中の「防犯面」を選択した場合、具体的に記入できるよう設定した。

住居費負担率については、それぞれ別の設問項目で得られた回答「先月支払った居住費」÷「先月の手取り月収」から算出した。

本調査は事前にアンケートモニターとして登録された人を対象としたモニター調査であり、回答者は無作為抽出ではなく、調査サイトへのアクセスは回答者の意志による。回答状況から、条件に合う対象者が 500 人（男女 250 人ずつ・その他の性別含む）に達した時点で調査を締め切っている。

(1)実施期間 2022 年 11 月～12 月

(2)調査方法 ウェブアンケート調査

(3)調査項目

①回答者のプロフィール

性別／居住地／職業／年収／先月の手取り収入と家賃補助／預貯金／婚姻状況

②生活と住まいについて

ペットの飼育状況／現在の住まいでの居住年数／住まいの形態と建て方／住まいの構造

住まいの床面積と間取り／住まいの築年数／先月の住居費／住居費の負担感

住居費の支払いのために節約していること／コロナ下での収入の変化／コロナ下での住まいへの影響

住まいを探す際優先度の高いもの／住まいで感じた不安や危険／防犯上意識してきたこと

住まい探して断られた経験／家族等から言われたこと／病気になった時に頼れる相手

住まいについての困りごと／今後の住まいについて不安だと思うこと（持ち家居住以外の方のみ）

住居確保給付金制度について／セーフティネット住宅制度について

国や自治体に望む住まいのサポートや仕組み／一人暮らしの住まいについて思うこと

(4)調査者

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

(5)監修者

葛西リサ（追手門学院大学准教授）

Ⅱ 調査の結果

1 集計結果の見方

(1)表記や数値について

- 「n」は、質問に対する回答者数で、比率算出の基数である。
- 「SA」は、質問に対する回答（選択肢）数を 1 つだけにした設問（Single Answer の略）、
「MA」は、質問に対して複数回答（選択）することができる設問（Multiple Answers の略）
のこと。MA の場合、回答数の合計を回答者数（n）で割った数の比率が 100%を超えることがある。
- 集計表の数値（パーセンテージ）は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、内訳の
個々の数値と合算した場合の数値は必ずしも一致しない。
- 本調査はウェブ調査であり、選択肢のある質問への回答を必須としているため、「不明」や
「無回答」といった表記は原則としてない。ただし自由回答については任意であり、数量回
答については無効と思われる回答については、「不明」扱いとしているケースがある。

(2)図表と回答者区分について

- 本報告書の図表は、基本的に属性別の回答分布をみるクロス集計のグラフで示している。
- グラフについては、選択肢を統合したり、回答割合の高い順に掲載したりしている場合があ
る。

(3)その他

- 本調査は、予め対象者を層別に抽出して協力を願う調査とは異なり、事前にアンケートモニ
ターとして登録された人に対するものである。そのため回答者は無作為抽出ではなく、イン
ターネットを利用しているアンケートモニターに限られることを前提に、調査結果をとらえ
る必要がある。

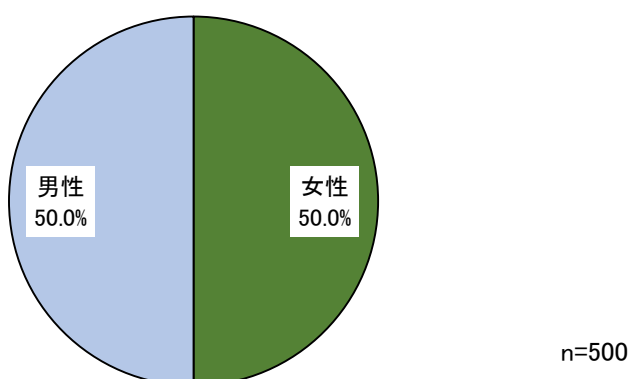
2 回答者のプロフィール

アンケートの対象者は横浜市内在住の 35 歳～60 歳の一人暮らしの就労中の方で、年収 180 万円～600 万円の女性・男性それぞれ 250 名抽出している。

(1)性別

回答者の性別は、女性、男性がいずれも 50.0%となっている¹³。これは対象者を同数で抽出した結果である点には注意が必要である。

図表 1：F1.年齢

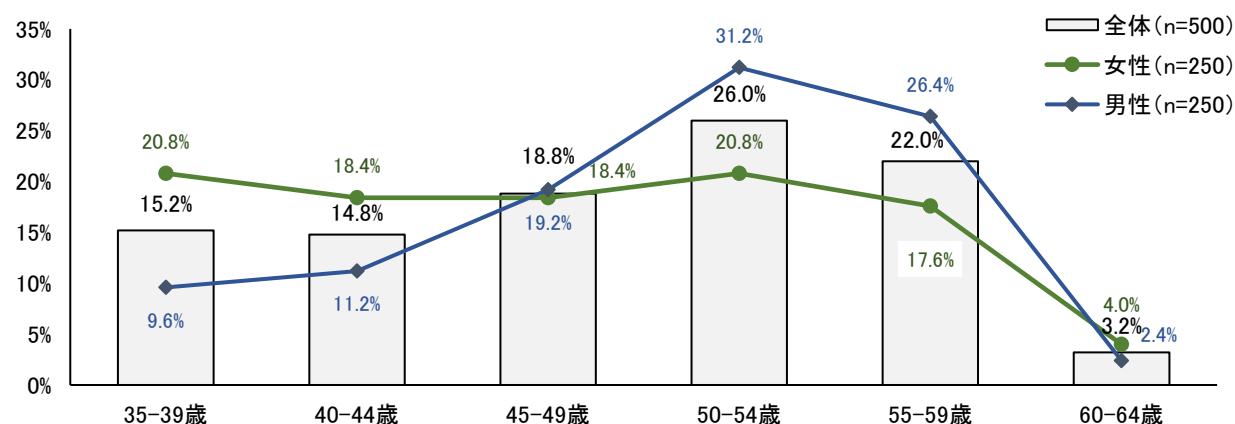


(2)年齢

年齢は、35 歳～60 歳が対象である。したがって「60-64 歳」は全て 60 歳である。全体では「50-54 歳」が 26.0%で最も高く、次いで「55-59 歳」が 22.0%で 50 歳代が半数近い。平均年齢は 48.6 歳である。

女性では「35-39 歳」と「50-54 歳」がいずれも 20.8%で最も高い。男性と比較すると「35-39 歳」では 10 ポイント以上高いのに対し、「55-54 歳」では 10 ポイント以上低く、若い層が多い。

図表 2：F2.年齢



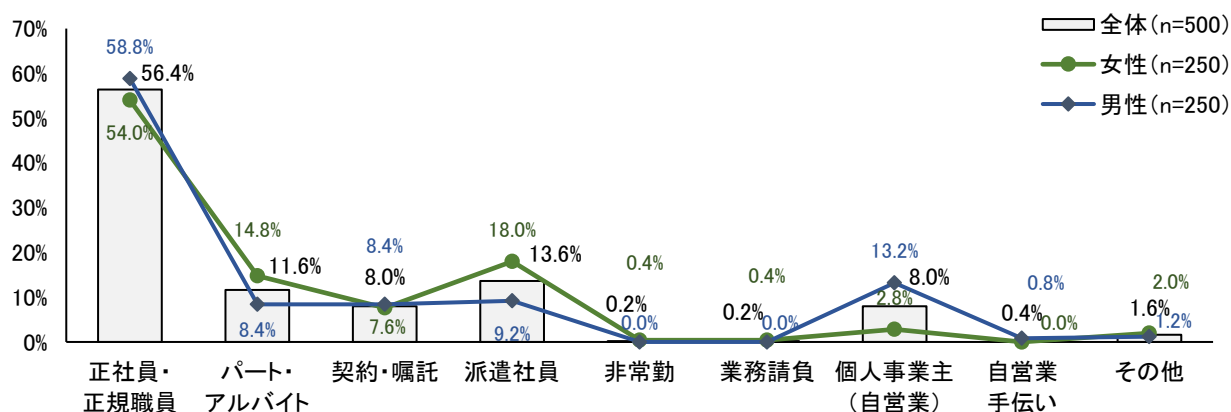
¹³ 対象者抽出の予備調査（スクリーニング調査）では「その他」の回答者がいたが、横浜市内在住など、対象者としての条件を満たさなかったため、結果的に本調査では「その他」の対象者はいなかった。

(3)職業

職業については、全体では「正社員・正規職員」が 56.4%で最も高くなっている。次いで「派遣社員」が 13.6%、「パート・アルバイト」が 11.6%となっている。

女性でも「正社員・正規職員」が 54.0%と最も高く、次いで「派遣社員」が 18.0%、「パート・アルバイト」14.8%となっている¹⁴。

図表 3：F5.職業



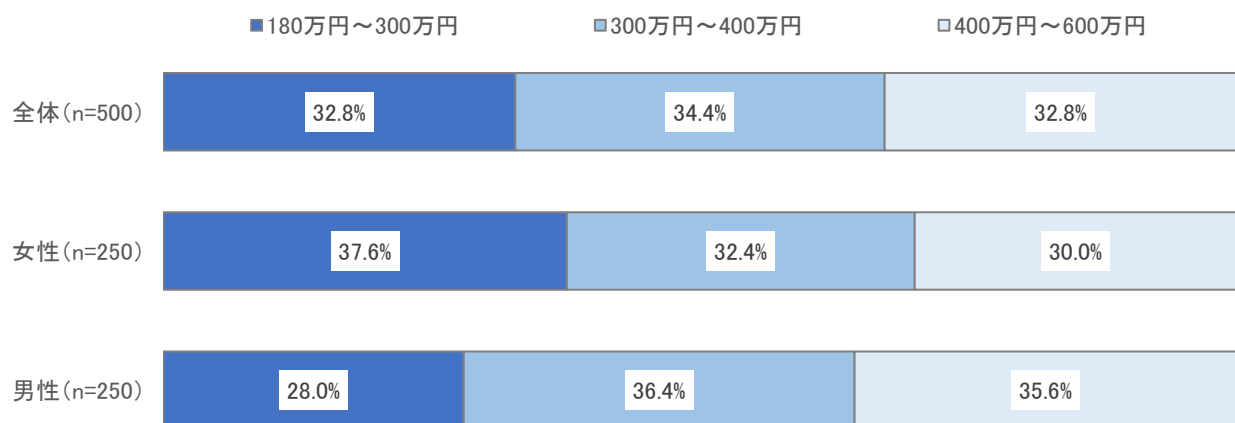
¹⁴ 総務省「労働力調査」(2022)によると、雇用者(役員を除く)に占める正規の職員・従業員の割合は男性が83.0%、女性が50.5%である。本調査では、雇用以外の働き方も含めているため、単純に比較はできないが、女性の「正社員・正規職員」の割合が高く、男性の「正社員・正規職員」の割合が低い。

(4)年収

年収は、180 万円～600 万円を対象としているが、「180 万円～300 万円」、「300 万円～400 万円」、「400 万円～600 万円」がいずれも 1/3 前後となっている。全体の約 2/3 が年収 400 万円以下となっている。

女性では「180 万円～300 万円」が 37.6%で、男性よりも 9 ポイント以上高い。

図表 4：F6.年収



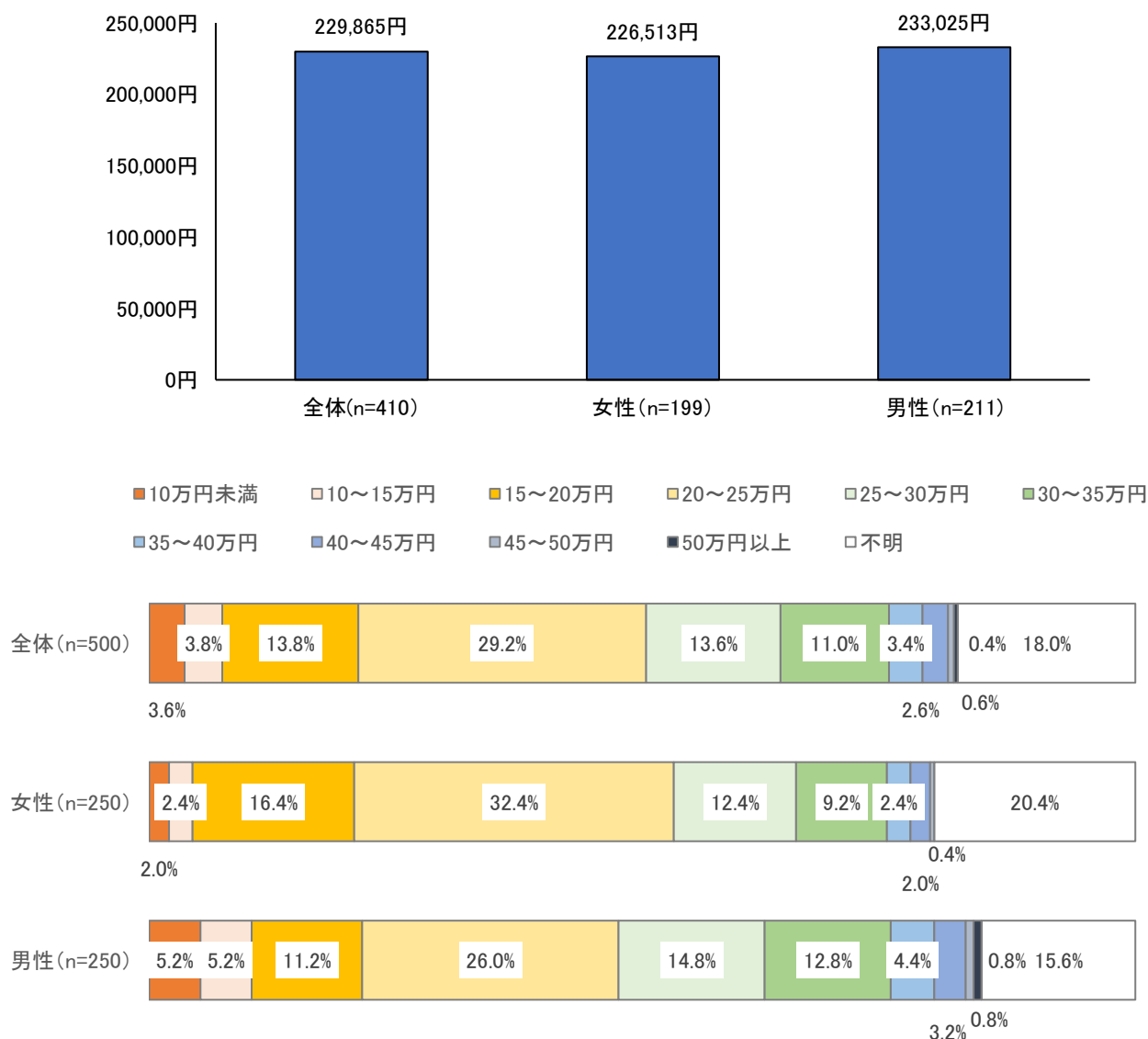
3 調査の結果

(1)月収と住宅手当¹⁵

①月収

月収の平均金額は、全体が 22 万 9,865 円、女性が平均 22 万 6,513 円、男性が 23 万 3,025 円で、女性が 6,000 円あまり低くなっている。

図表 5：Q1.あなたの先月の手取り収入（税金などひかれた後の実際に手元に残るお金）についてお答えください。(1)手取り収入の総額（単位：円※勤務先からの手当て、配当、仕送り、障がい年金など勤労所得以外の収入も含めて下さい）



月収の分布をみると、全体では「20～25 万円」が 29.2%で最も高く、次いで「15～20 万円」が 13.8%、「25～30 万円」が 13.6%となっている。女性についてみると「20～25 万円」が 32.4%で最も高

¹⁵ アンケートは、オンライン調査のため原則無回答はないが、桁違いなどの誤りと思われるものなどを「不明」としている。そのため月収、住宅手当とも「不明」が生じている。平均値の算出では「不明」が母数から除かれるため、平均値の棒グラフと、割合を示す帯グラフでは母数が異なっている。

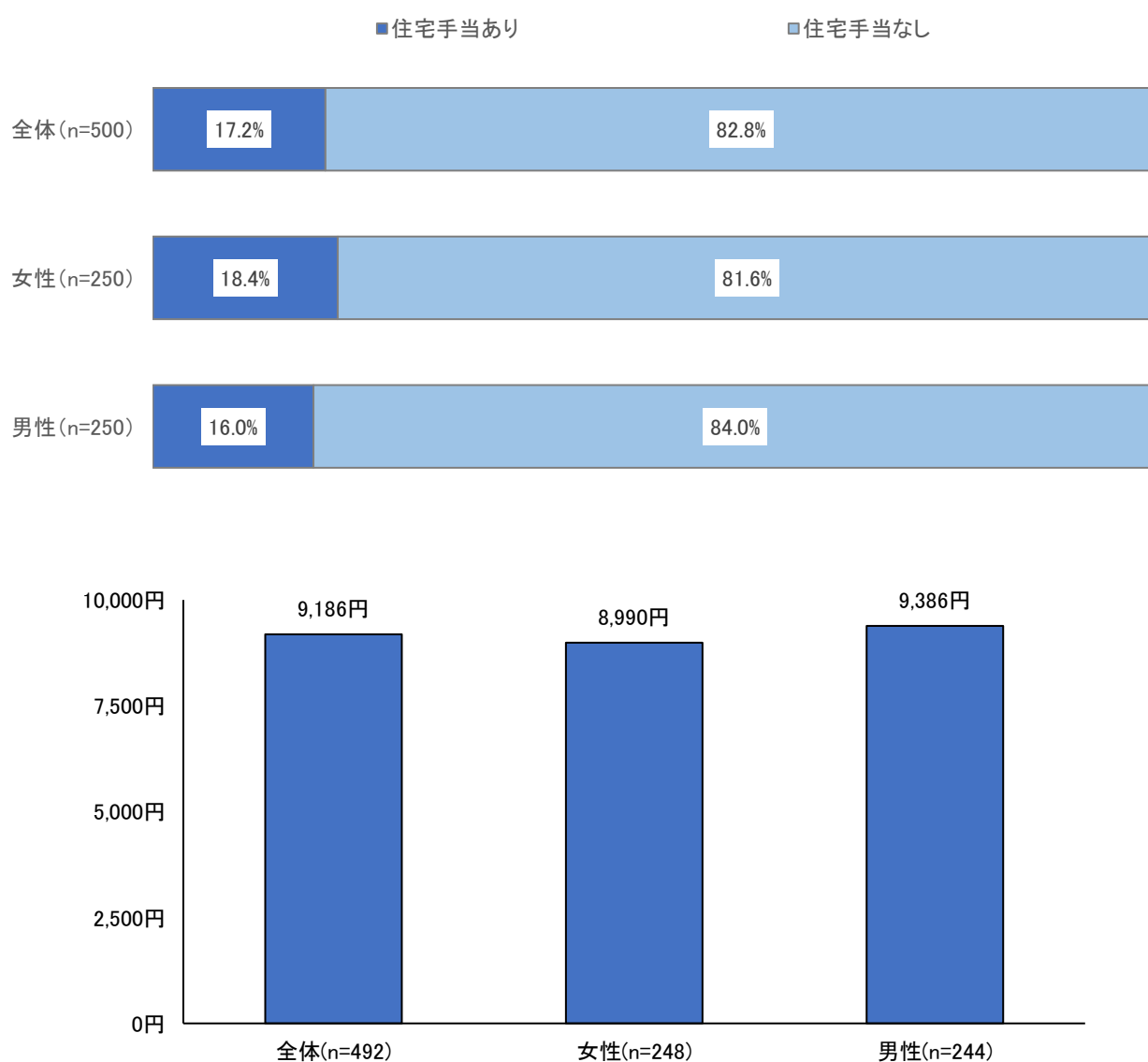
くなっている。

②住宅手当

住宅手当については、全体では「住宅手当あり」が 17.2%となっている。女性では 18.4%で男性の 16.0%より 2 ポイントあまり高くなっている。

住宅手当の平均金額は、全体が 9,186 円、女性が 8,990 円、男性が 9,386 円で女性の方が 400 円程度低くなっている。

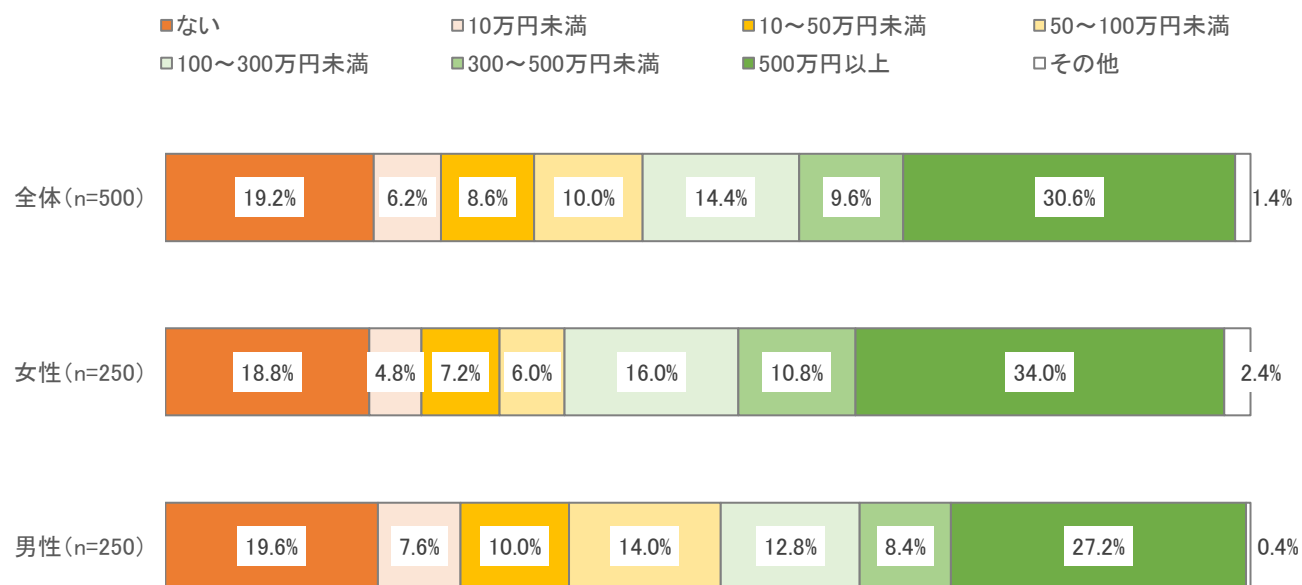
図表 6：Q1.あなたの先月の手取り収入（税金などひかれた後の実際に手元に残るお金）について
お答えください。(2)手取り収入のうち、勤務先からの住宅手当や家賃補助の金額（単位：円）



(2)預貯金や金融資産

預貯金や金融資産の総額は、全体では「500 万円以上」が 30.6%で最も高い。次いで「ない」が 19.2%、「100～300 万円未満」が 14.4%となっている。

図表 7：Q2.あなたには預貯金や金融資産がどれくらいありますか。その総額についてお答えください。

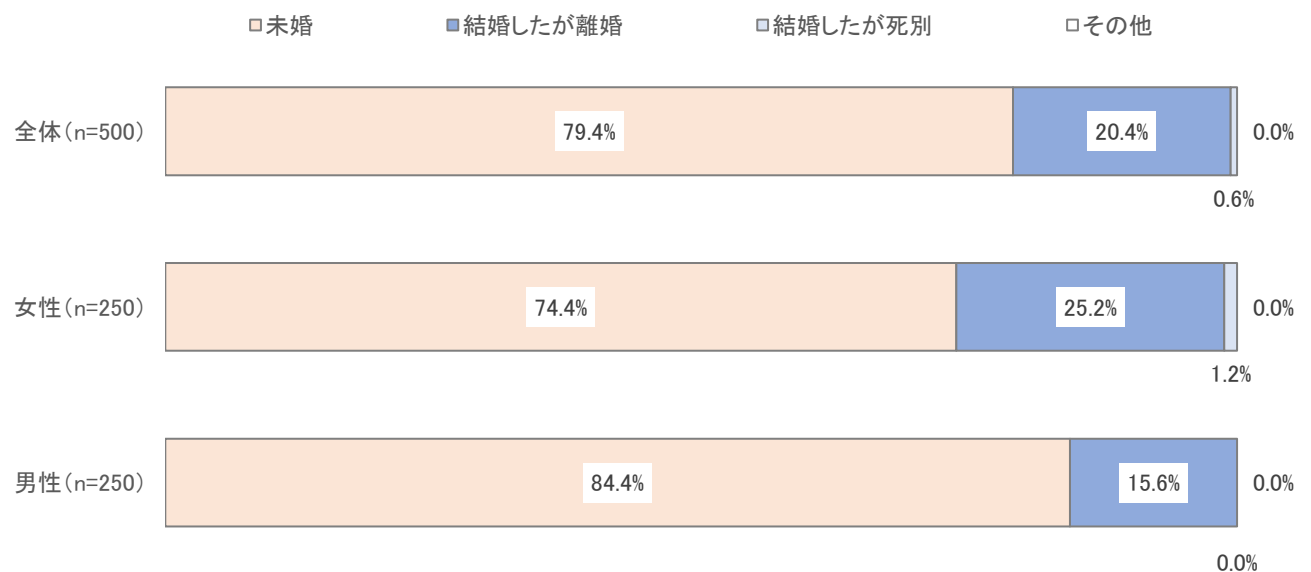


(3)婚姻状態

婚姻については、全体では「未婚」が79.4%、「結婚したが離婚」が20.4%となっている。

女性では「未婚」が74.4%と男性よりも10ポイント低く、「結婚したが離婚」が10ポイント近く高くなっている。

図表8：Q3.あなたのこれまでの婚姻状況について、あてはまるものをお答えください。

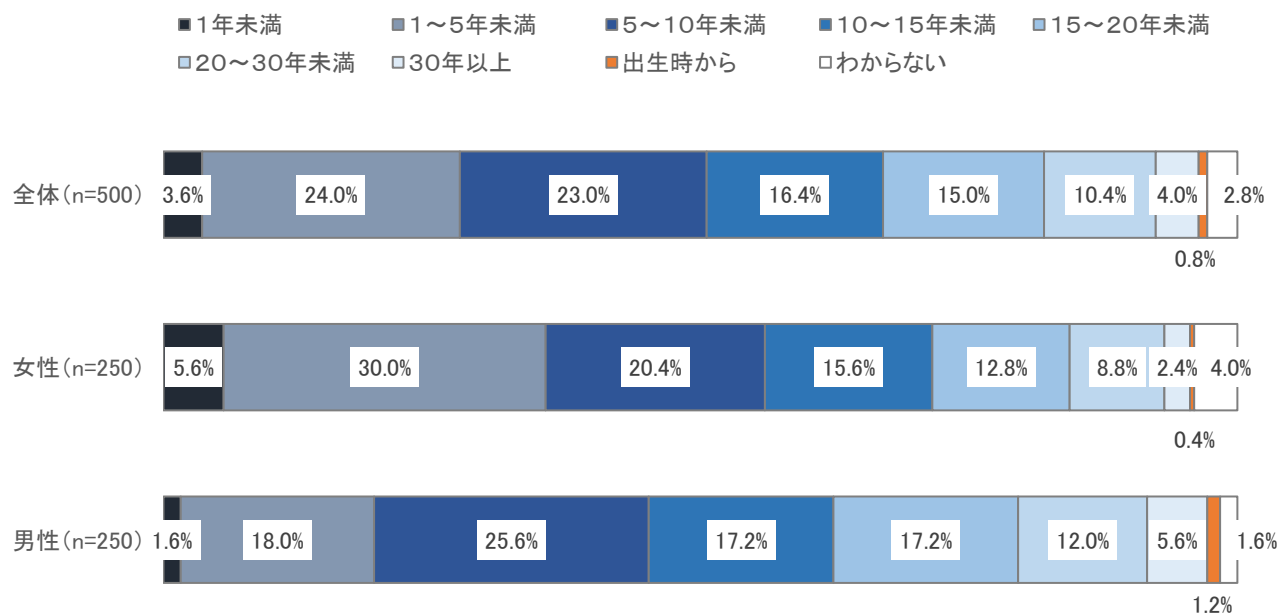


(4)現在の住まいに住んでいる期間

現在の住まいに住んでいる期間は、全体では「1～5 年未満」が 24.0%で最も高く、次いで「5～10 年未満」が 23.0%となっている。

全体として女性の方が現在の住まいに住んでいる期間が短い傾向がある。

図表 9：Q5.あなたが現在の住まいに住んでいる期間についてお答えください。

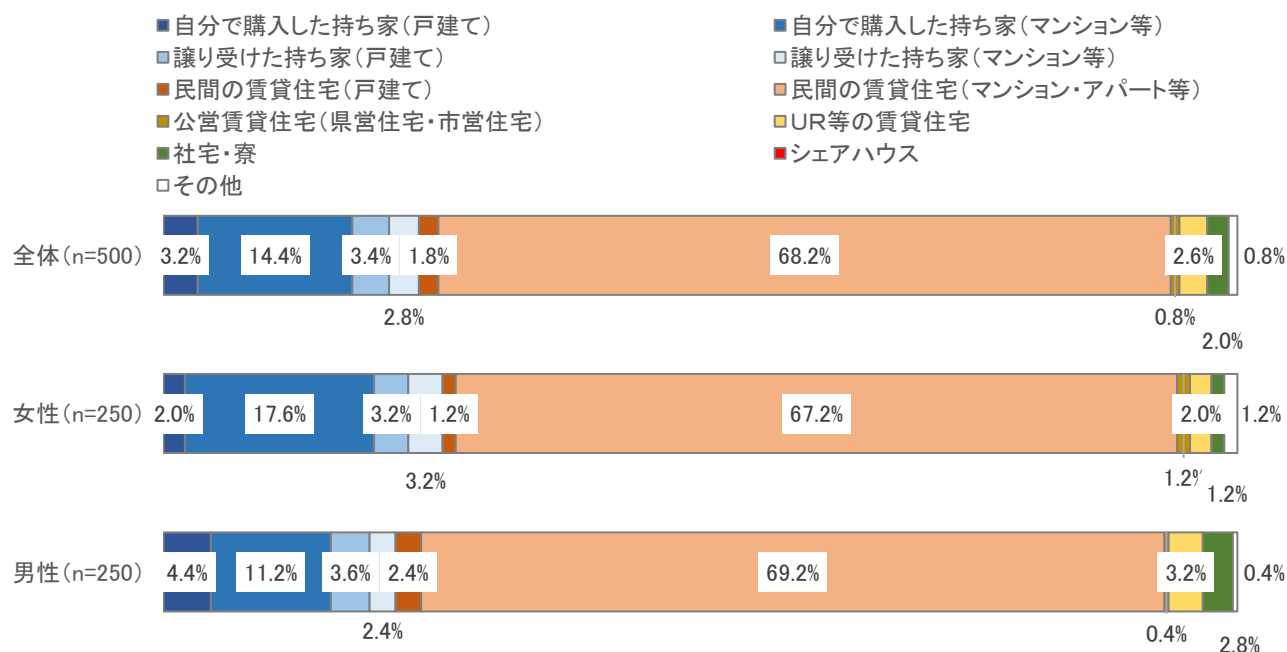


(5)住まいの形態・建て方

現在の住まいの形態・建て方については、全体では「民間の賃貸住宅（マンション・アパート等）」が68.2%と高い割合になっている。

女性の場合は「民間の賃貸住宅（マンション・アパート等）」が67.2%となっている。また、「自分で購入したマンション」が17.6%と男性よりも6.4ポイント高いなど、持家の比率がやや高くなっている。

図表 10：Q6 現在のあなたの住まいの形態・建て方についてお答えください。

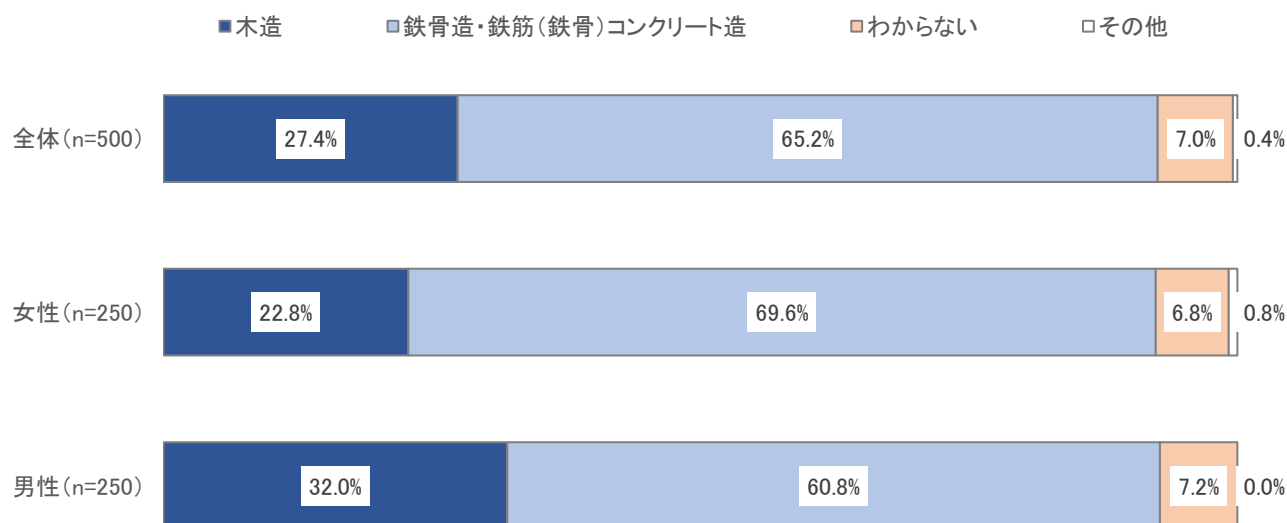


(6)住まいの構造

現在の住まいの構造については、全体では「鉄骨造・鉄筋（鉄骨）コンクリート造」が 65.2%で高く、「木造」は 27.4%となっている。

女性では「鉄骨造・鉄筋（鉄骨）コンクリート造」が 69.6%で男性より 9 ポイント近く高く、「木造」が 22.8%と 9 ポイント以上低くなっている。

図表 11：Q7.現在のあなたの住まいの構造についてお答えください。

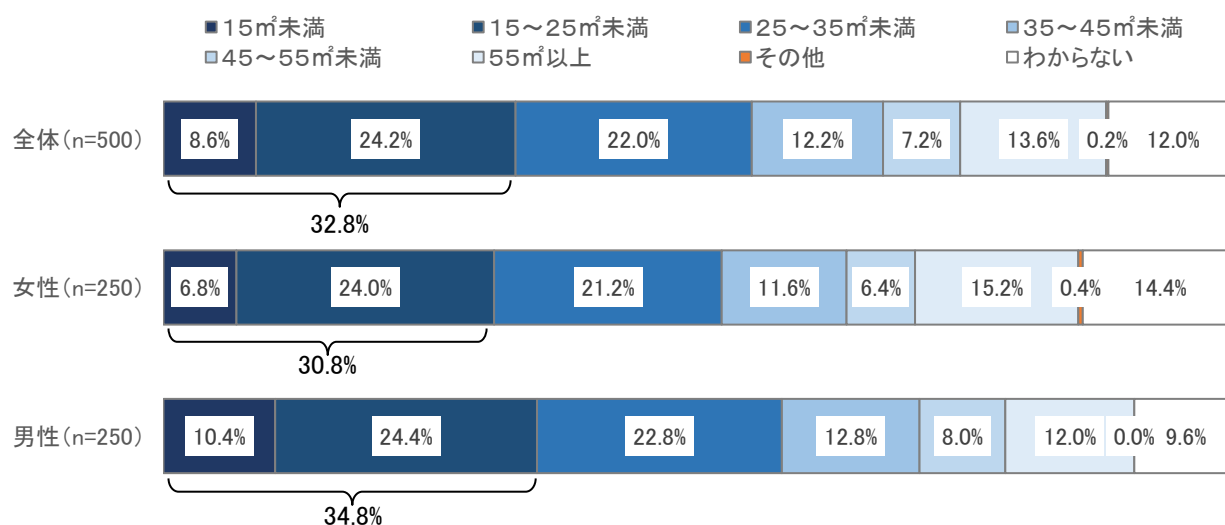


(7)住まいの床面積

住まいの床面積は「15～25 m²未満」が 24.2%で最も高く、次いで「25～35 m²未満」の 22.0%となっている。

国が定めた「最低居住面積水準」¹⁶を下回る 25 m²未満の住まいの居住者は全体で 32.8%、女性では 30.8%、男性では 34.8%となっている。

図表 12：Q8.現在のあなたの住まいの床面積についてお答えください。

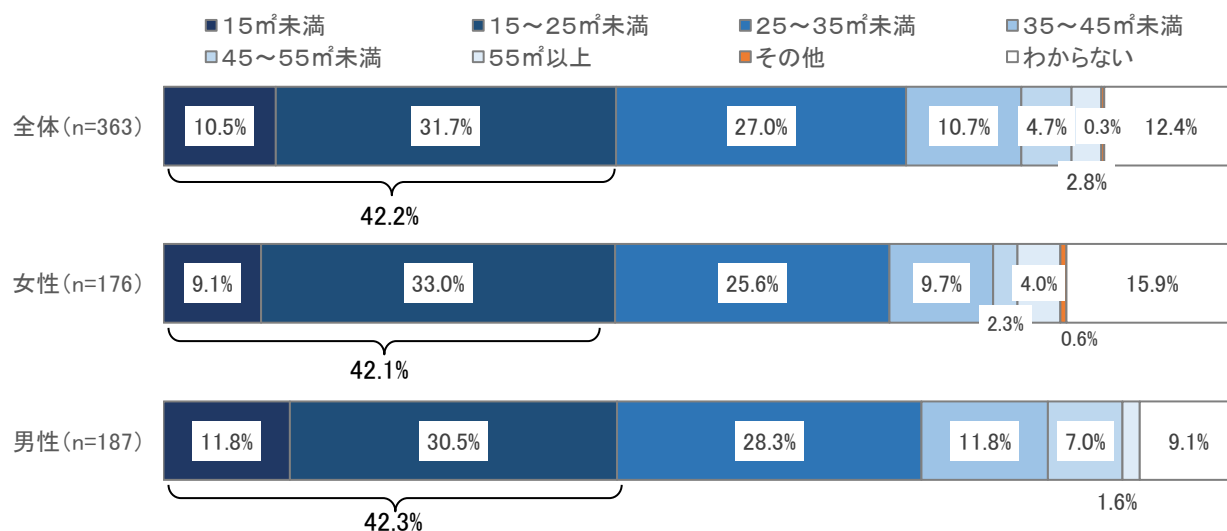


¹⁶ 国土交通省「住生活基本計画」において定められる「世帯人数に応じて、健康で文化的な住生活を営む基礎として必要不可欠な住宅の面積に関する水準」。単身者では 25 m²。

賃貸住宅居住者（公営賃貸住宅と社宅・寮を除く）¹⁷のみでみると、「15～25 m²未満」が 31.7%、「25～35 m²」が 27.0%、「15 m²未満」が 10.5%となっており、25 m²未満の合計が 42.2%と全対象者の回答より 9 ポイント以上高い。

図表 13：Q8.現在のあなたの住まいの床面積についてお答えください。

（賃貸居住者（公営賃貸住宅、社宅・寮を除く）のみ）



男女ともに、全対象者の 3 割、賃貸住宅居住者（公営賃貸住宅、社宅・寮を除く）では 4 割が、「最低居住面積水準」を下回る住まいに居住している。

¹⁷ 民間の賃貸住宅(戸建て)・民間の賃貸住宅(マンション)・UR 等の賃貸住宅居住者の合計。

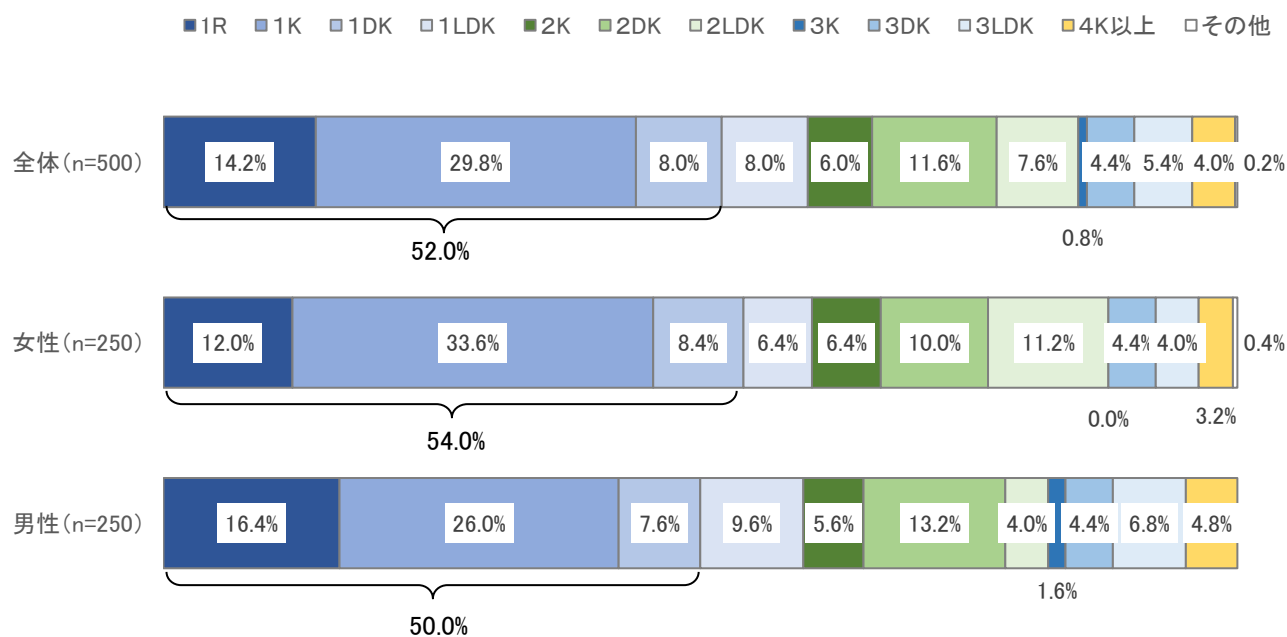
(8)住まいの間取り

住まいの間取りは、全体では「1K」が29.8%で最も高く、次いで「1R」の14.2%、「2DK」の11.6%となっている。「1R」、「1K」、「1DK」を合計すると52.0%と過半数となっている。

女性についてみると「1R」、「1K」、「1DK」を合計すると54.0%となり、男性とほぼ同様である。

図表 14：Q9.現在のあなたの住まいの間取りについてお答えください。

例) 1R：ワンルーム、1K：1つの部屋とキッチン、1DK（1つの部屋とキッチン・食事をする部屋）、1LDK（1つの部屋とキッチン・食事をする部屋・居間）

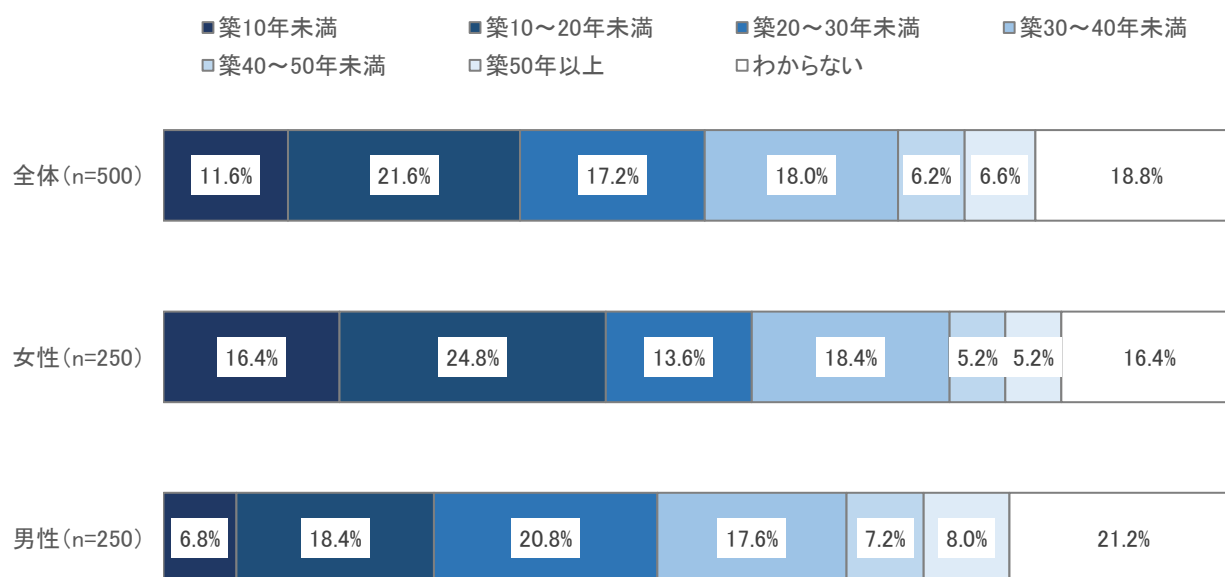


(9)住まいの築年数

住まいの築年数は、全体では「築 10～20 年未満」が 21.6%で最も高く、次いで「築 20～30 年未満」が 17.2%となっている。築 30 年未満を合計すると、50.4%とほぼ半数となっている。

女性では「築 10 年未満」が 16.4%と男性より 10 ポイント近く高くなっている。築 30 年未満の合計を見ても女性では 54.8%と、男性の 46.0%よりも 9 ポイント近く高くなっている。

図表 15：Q10.現在のあなたの住まいの築年数についてお答えください。



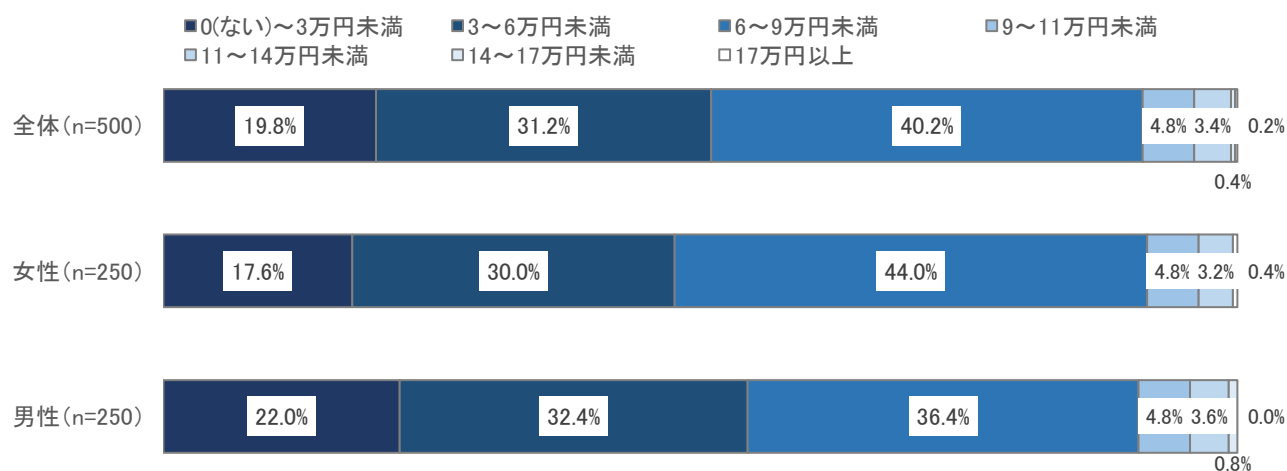
(10)住居費について

①住居費¹⁸

家賃や住宅ローンの支払額などの住居費について、全体では「6～9万円未満」が40.2%で最も高く、次いで「3～6万円未満」が31.2%で7割あまりが3万円～9万円未満となっている。

女性では「6～9万円未満」が44.0%で、男性より7ポイント以上高くなっている。

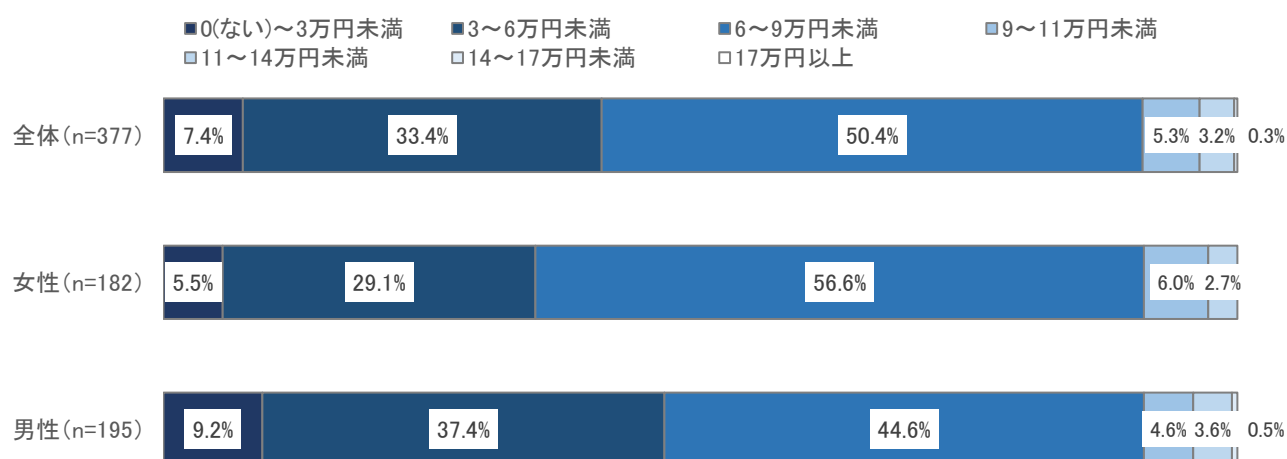
図表 16：Q11.先月にあなたが支払った住居費（家賃または住宅ローン等、月々の支払い）はいくらですか。共益費や管理費も含んだ金額でお答えください。



¹⁸ 住居費について、一桁の回答などがみられたが、誤りと断定できないため「0（ない）～3万円未満」にふくんでいる。

賃貸住宅居住者¹⁹では、全体では「6～9万円未満」が50.4%で最も高く、次いで「3～6万円未満」が33.4%となっている。8割あまりが3万円～9万円未満となっている。女性では「6～9万円未満」が56.6%で男性より12ポイント高くなっている。

図表 17：Q11.先月にあなたが支払った住居費（家賃または住宅ローン等、月々の支払い）はいくらですか。共益費や管理費も含んだ金額でお答えください。（賃貸住宅居住者）



¹⁹ 賃貸住宅居住者とは、民間の賃貸住宅(戸建て)・民間の賃貸住宅(マンション)・公営賃貸住宅（県営住宅、市営住宅）・UR等の賃貸住宅・社宅・寮・シェアハウス居住者の合計。

②住居費の負担率

月収に対する住居費の割合を住居費負担率として計算している。住居費負担率については、調査の設計部分でも触れているが、それぞれ別の設問項目で質問した「先月支払った居住費」÷「先月の手取り月収」から算出した。月収と住居費の2項目両方について適切と思われる回答があるものに限られるため、「不明」に該当するものも多くなっている。

住居費負担率の平均は全体では27.4%となっている。

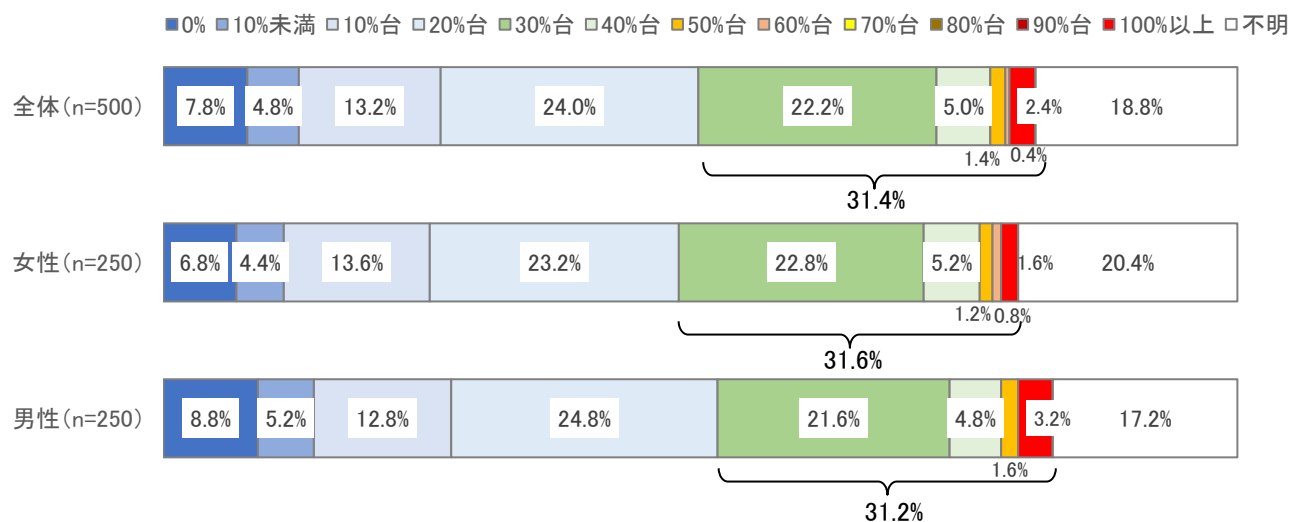
女性では29.1%となっており、男性の25.7%と比べて3.4ポイント高くなっている。また、居住形態、雇用形態別にみても、女性の住居費負担率は男性より高くなっている。

図表 18：住居費負担率（平均）

		回答数	住居費負担率
全体		401	27.4
性別	男性	202	25.7
	女性	199	29.1
居住形態	女性-持ち家	43	22.4
	男性-持ち家	29	13.7
	女性-賃貸住宅	150	31.6
	男性-賃貸住宅	165	28.0
雇用形態	女性-正社員・正規職員	109	27.9
	男性-正社員・正規職員	121	23.9
	女性-非正規職	83	31.5
	男性-非正規職	55	30.7

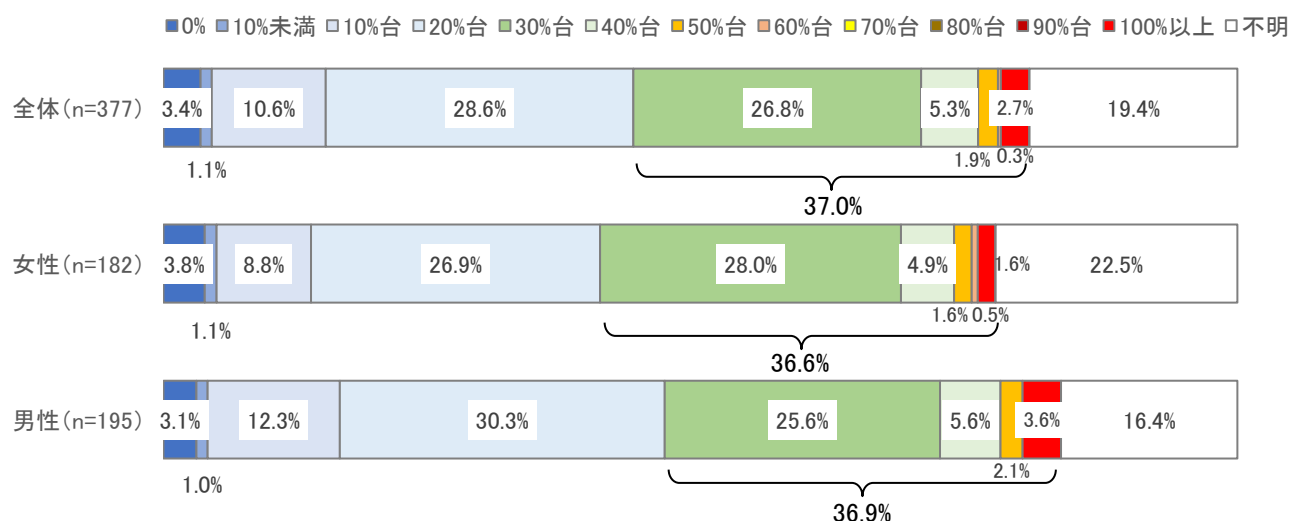
様々な先行研究では、住居費負担率が 30%を超えると荷重負担と定義されている²⁰。住居費負担率の分布についてみると、30%台以上の割合は、全体では 31.4%、女性では 31.6%、男性では 31.2%となっている。

図表 19：住居費負担率 Q11 住居費÷Q1 月収



また、賃貸住宅居住者の住居費負担率の分布をみると、30%台以上の割合は、全体では 37.0%、女性では 36.6%、男性では 36.9%となっている。男女ともに、賃貸住宅居住者の住居費負担率は全対象者の回答より高くなっている。

図表 20：住居費負担率 Q11 住居費÷Q1 月収（賃貸住宅居住者のみ）



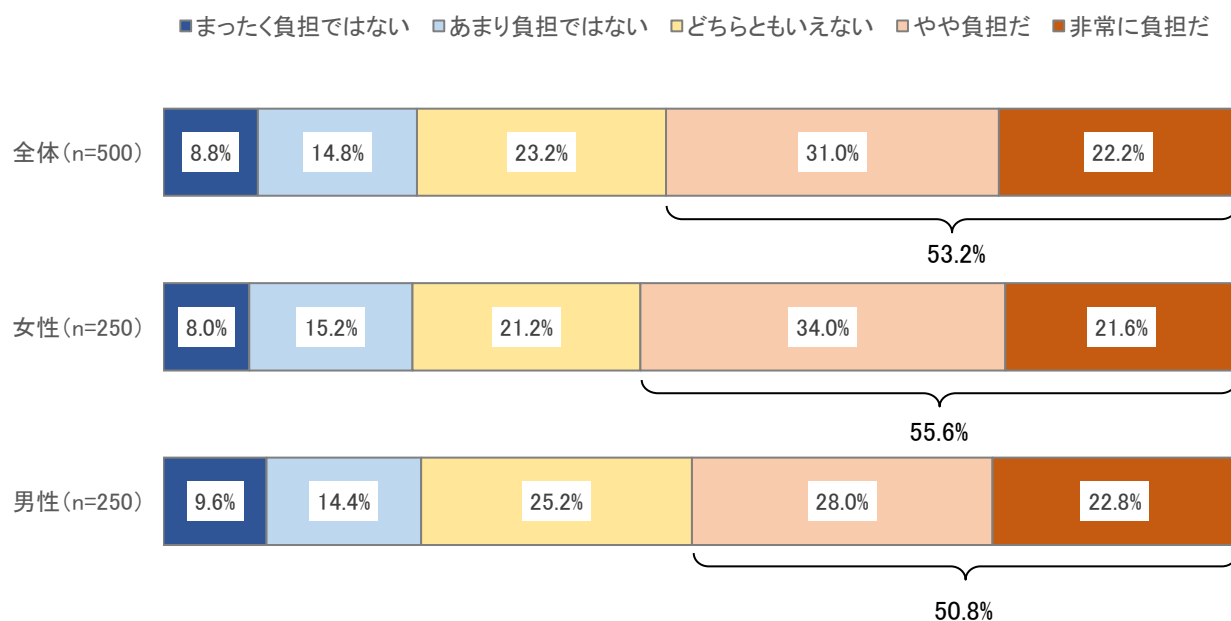
²⁰ 川田 菜穂子, 平山 洋介「所得格差と相対的貧困の拡大における住居費負担の影響－住居費控除後所得 (After-housing income)を用いた実証分析を通じて－」『住総研研究論文集』No42、丸善出版（2016）

(11)住居費の支払いについての負担感

住居費の負担感について、全体では「やや負担だ」が 31.0%で最も高く、次いで「非常に負担だ」が 22.2%となっている。合計すると 53.2%と過半数が負担に感じている。

女性では「やや負担だ」が 34.0%、「非常に負担だ」が 21.6%で、合計すると 55.6%となっている。

図表 21：Q12.あなたにとって住居費の支払いはどの程度負担になっていますか。



(12)住居費のために節約していること

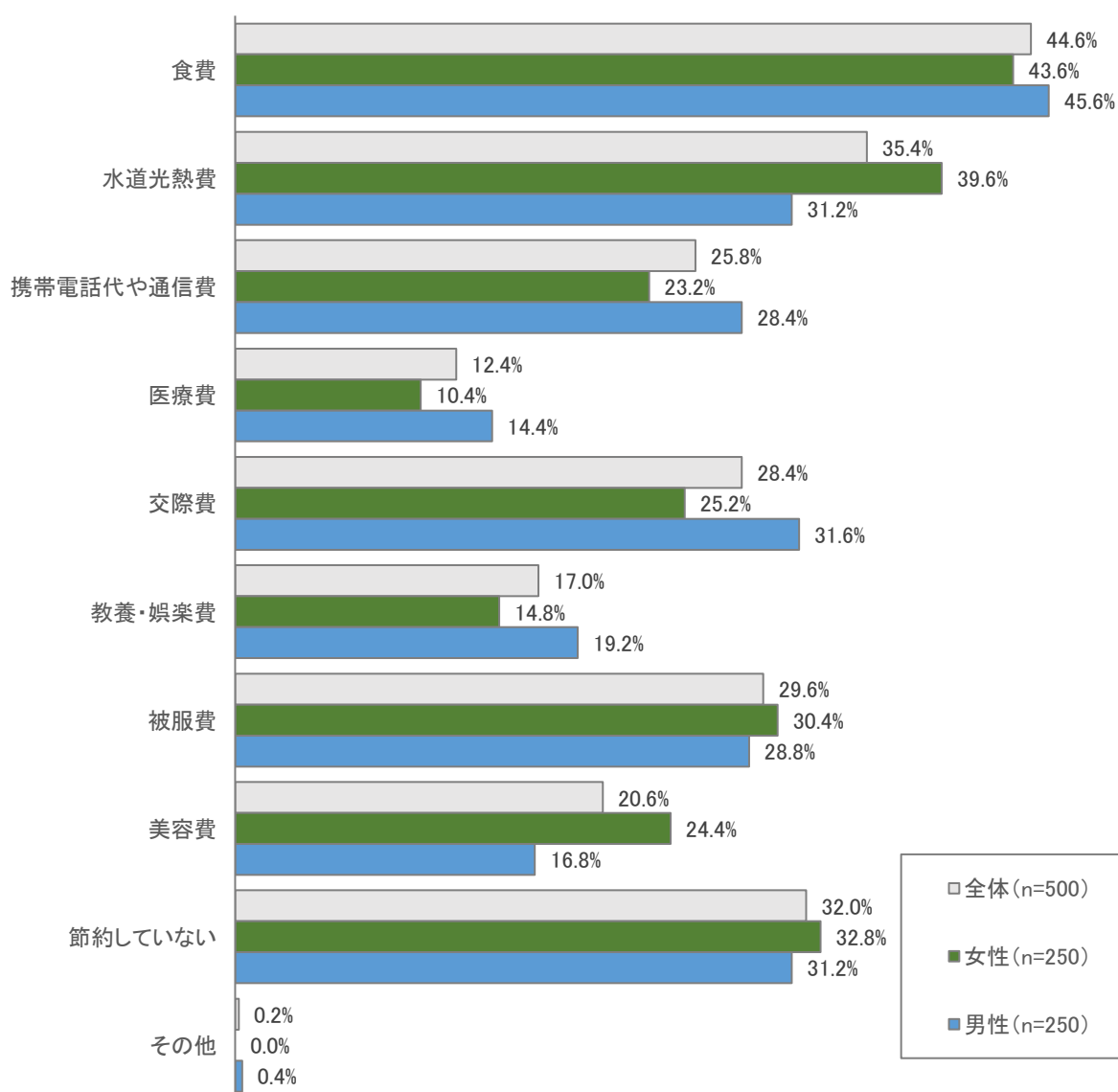
住居費のために節約していることは、全体では「食費」が 44.6%で最も高く、次いで「水道光熱費」が 35.4%となっている。「節約していない」は 32.0%で 7 割近くが何らかの節約をしていることが分かる。

女性についてみると「食費」が 43.6%で最も高い。また「水道光熱費」については 39.6%で男性よりも 8 ポイント以上高くなっている。

「医療費」を節約しているという回答は、男女共に 10%以上となっている。

図表 22：Q13.住居費の支払いのために、節約していることはありますか。

あてはまるものをいくつでもお答えください。

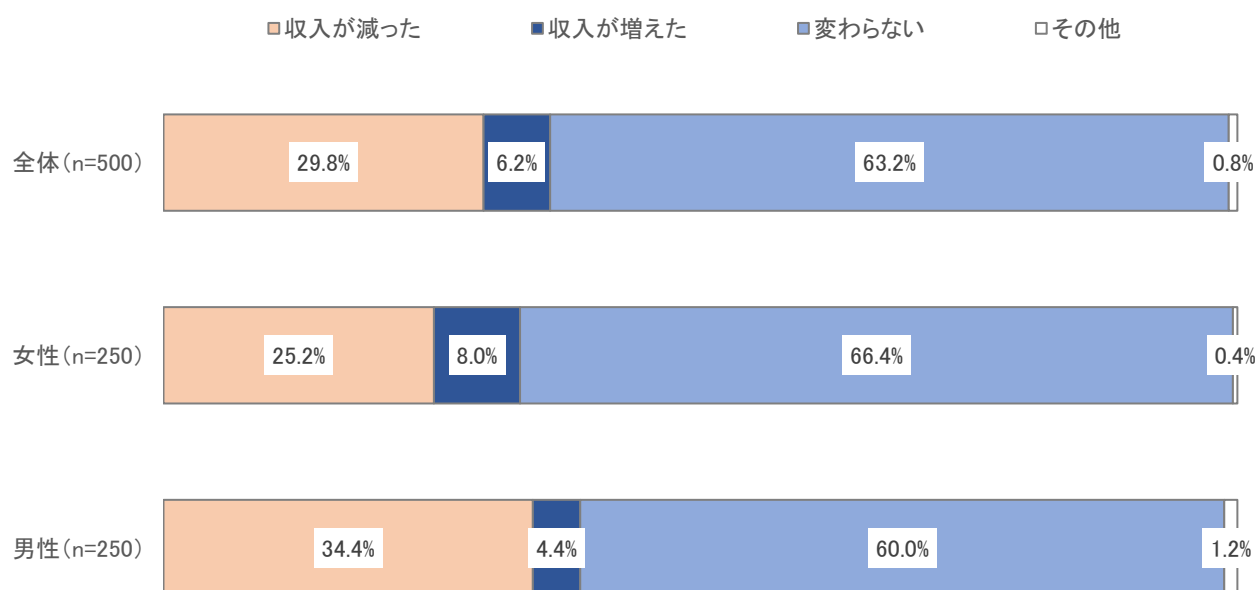


(13)新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化

新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化については、全体では「収入が減った」は 29.8%となっている。

女性では「収入が減った」が 25.2%、男性では 34.4%となっている。男女ともに少なからず影響を受けていることが分かる²¹。

図表 23：Q14.新型コロナウイルス感染症拡大により、あなたの収入に変化がありましたか。コロナ前と現在で比較してお答えください。

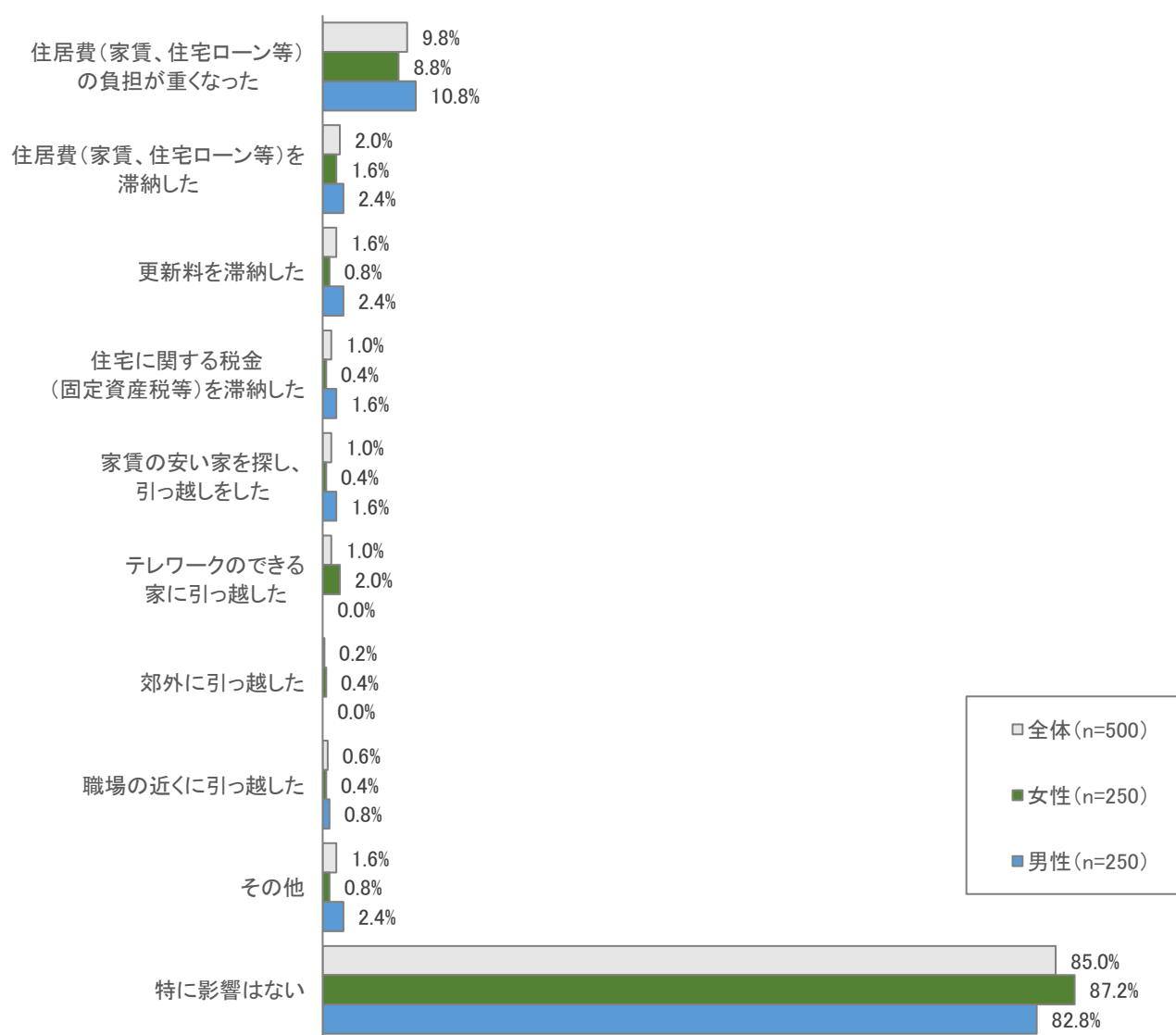


²¹ 新型コロナウイルス感染症の拡大は、男性と女性に対して異なる影響を及ぼしている。特に、女性の非正規雇用労働者が多いサービス業等の接触型産業が強く影響を受け、女性就業者数が減少した。「新型コロナウイルスと雇用・暮らしに関する NHK・JILPT 共同調査」(2020)によると、解雇や労働時間の減少といった雇用の悪化が起きた人は、男性が 18.7%、女性は 26.3%だった。

(14)新型コロナウイルス感染症拡大により、住まいに関して生じた影響

新型コロナウイルス感染症拡大により住まいに関して生じた影響については、全体では15%が何らかの影響を受けている。具体的には、「住居費（家賃、住宅ローン等）の負担が重くなった」が9.8%で最も高い。

図表 24：Q15.新型コロナウイルス感染症拡大により、あなたの住まいに関することについて影響が生じたことがありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

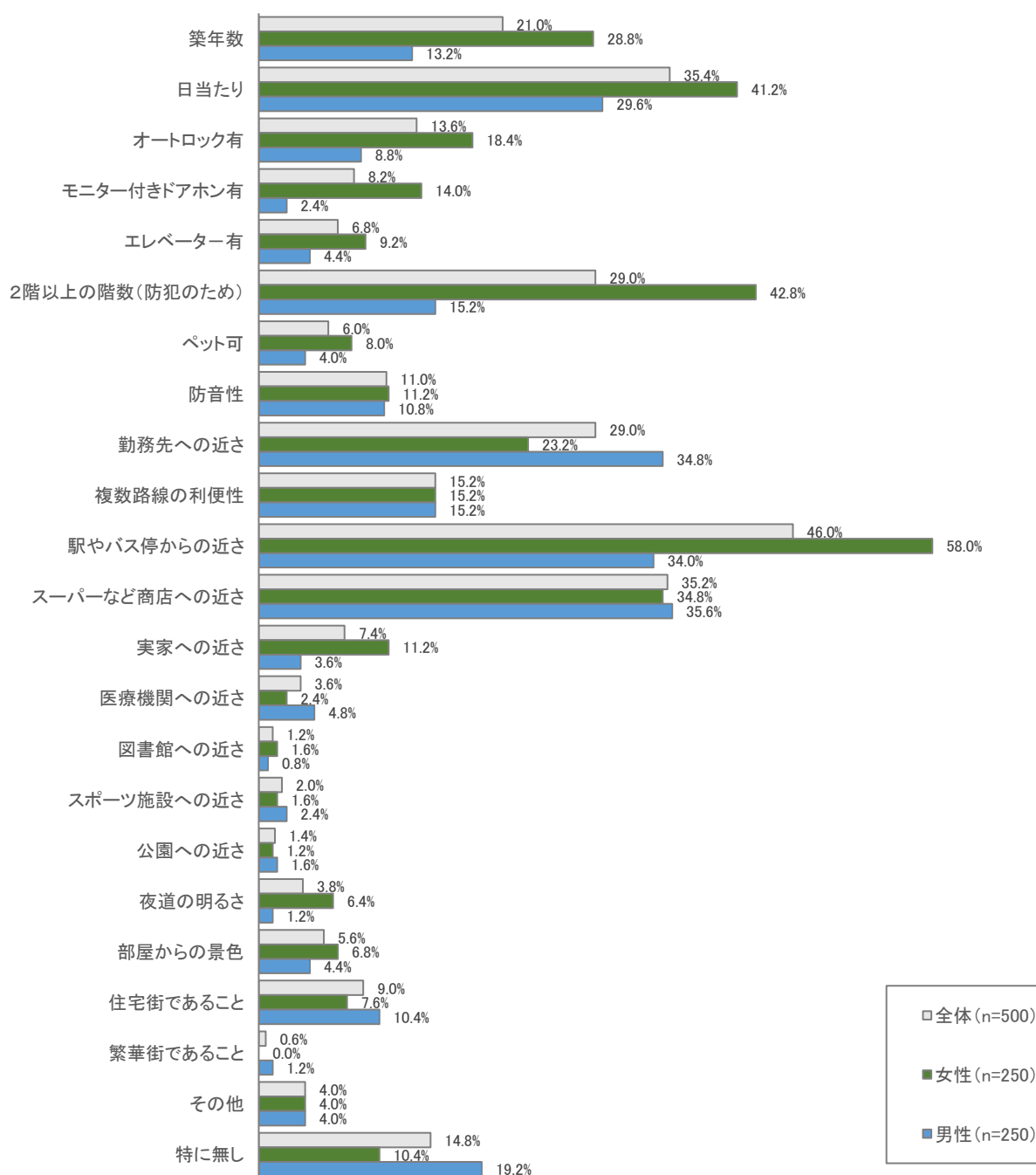


(15)現在の住まいを探すときの家賃や初期費用・広さ・間取り以外の条件

住まいを探す時の条件として、一般的なもの以外にどのような条件を重視したかを質問している。全体では「駅やバス停からの近さ」が46.0%で高く、次いで「日当たり」の35.4%となっている。

女性では「駅やバス停からの近さ」が58.0%と男性より24ポイント高い。次いで「2階以上の階数(防犯のため)」が42.8%で、男性より27ポイント高く、差が大きくなっている。

図表 25：Q16.現在の住まいを探すときの条件として、家賃や初期費用・広さ・間取り以外で考慮したもののうち、優先順位の高かったものを5つまでお答えください。



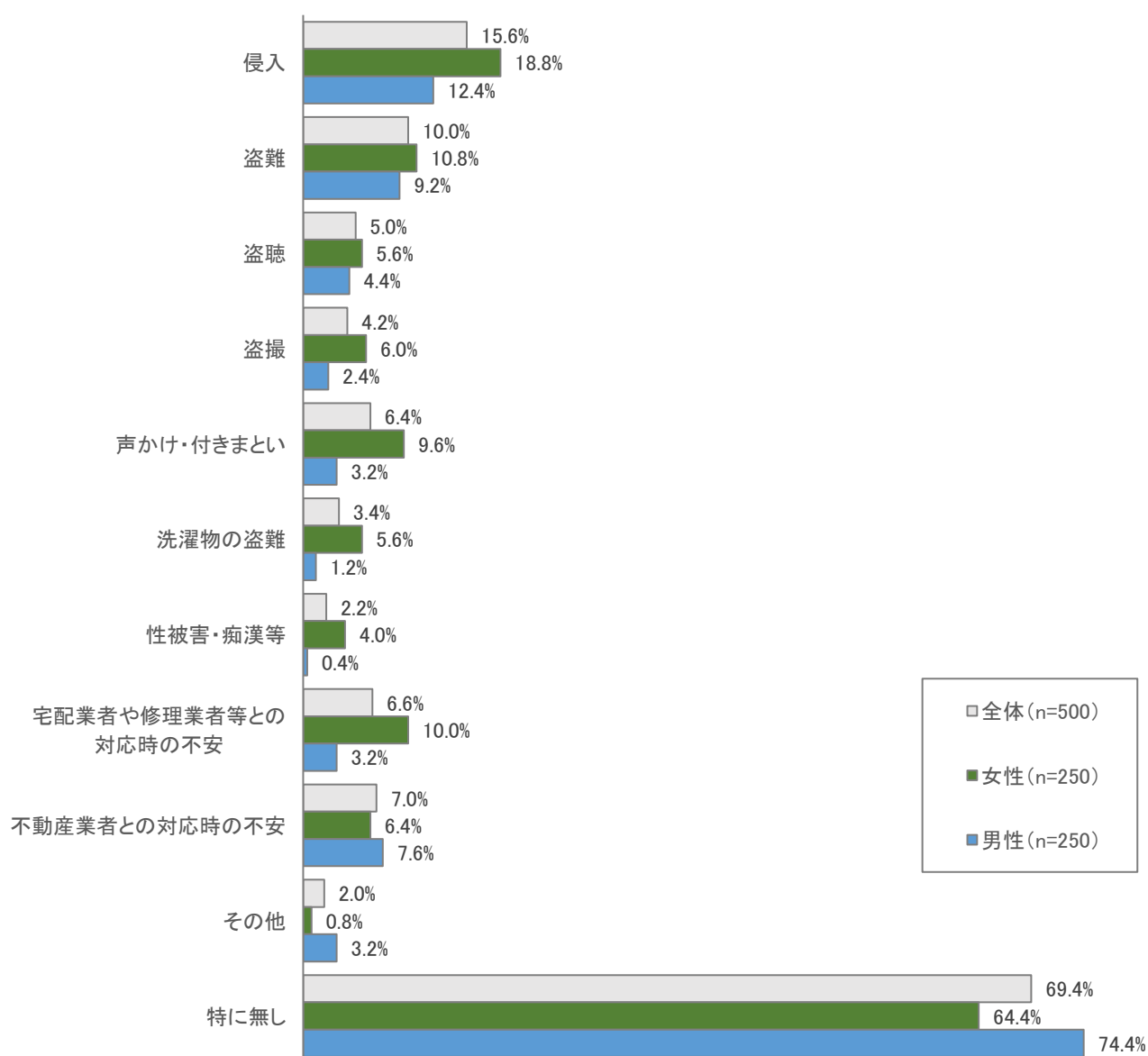
女性が住まいの安全性のために、防犯面の条件を重視していることがうかがえる。一般的に、上層階になるほど、家賃や物件価格など住居費は高くなる。女性は安全性を確保するために、より高いコストを負担していると言えるのではないか。

(16)自分の住まいや周辺で感じた危険や不安

住まいの周辺で感じた危険や不安については、全体では 30.6%が何らかの危険や不安を感じている。具体的に感じた危険や不安では、「侵入」が 15.6%で最も高くなっている。

女性についてみると 35.6%が何らかの危険や不安を感じている。その割合は男性の 25.6%より 10 ポイント高い。具体的には「宅配業者や修理業者等との対応時の不安」は 10.0%と男性より 6 ポイント以上高く、「声かけ・付きまとい」は 9.6%と男性より 6 ポイント以上高くなっている。「洗濯物の盗難」についても 5.6%と男性より 4 ポイント以上高くなっているなど、ほぼすべての項目で男性よりも危険や不安を感じた割合が高くなっている。

図表 26：Q17.今まで一人暮らしをしていて、自分の住まいや周辺で、以下のような危険や不安を感じたことがありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。



(17)一人暮らしをする際、防犯上、意識してきたこと

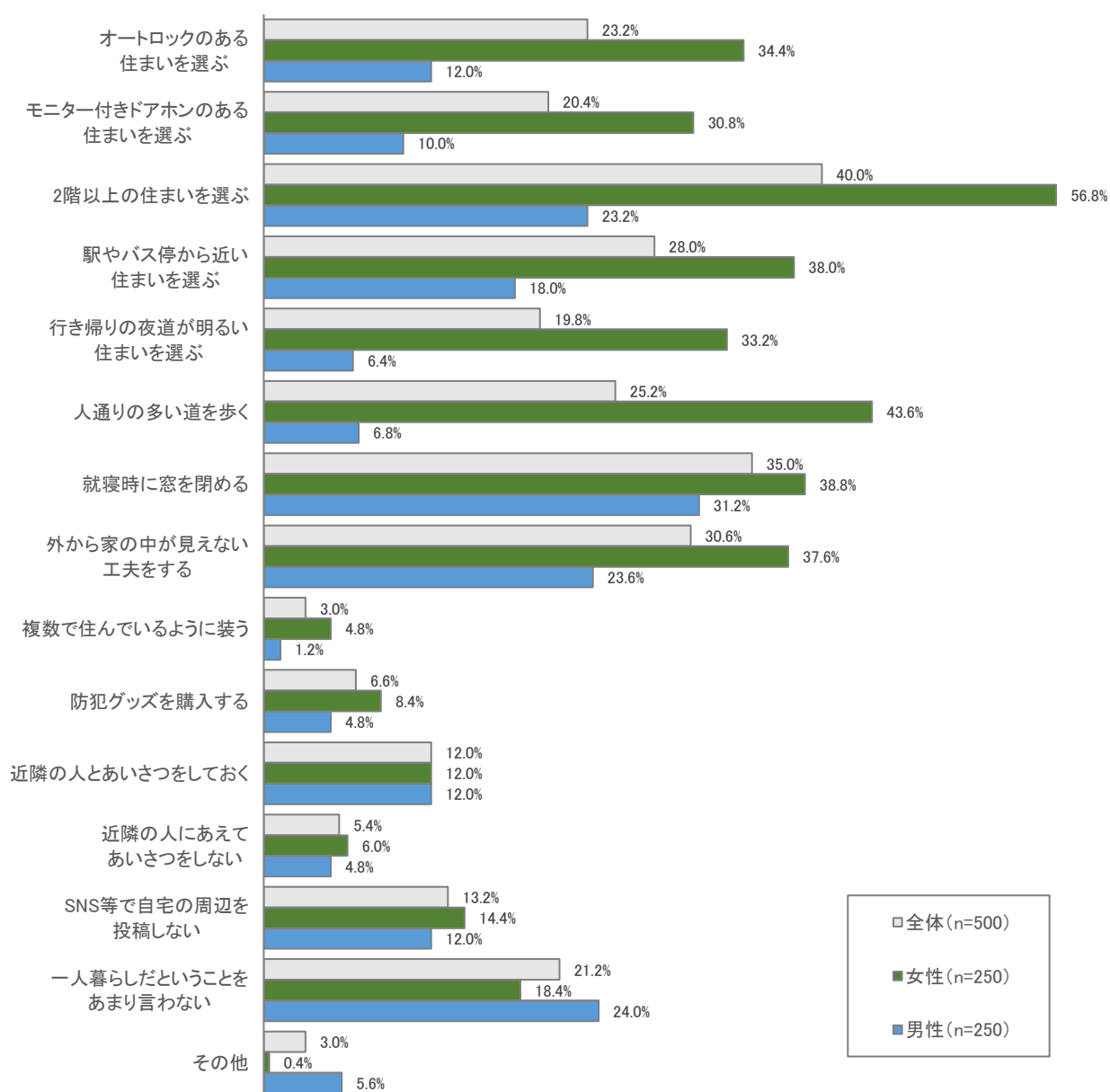
防犯上意識してきたことは、全体では「2 階以上の住まいを選ぶ」が 40.0%で最も高く、次いで「就寝時に窓を閉める」の 35.0%、「外から家の中が見えない工夫をする」が 30.6%となっている。

女性では「2 階以上の住まいを選ぶ」が 56.8%で最も高く、次いで「人通りの多い道を歩く」が 43.6%となっており、いずれも男性より 30 ポイント以上高くなっている。

その他ほぼすべての項目で、男性に比べ女性の方が割合が高く、防犯上、意識してきたことが多くなっている。

図表 27：Q18.今までに、一人暮らしをする際、防犯上、意識してきたことがありますか。

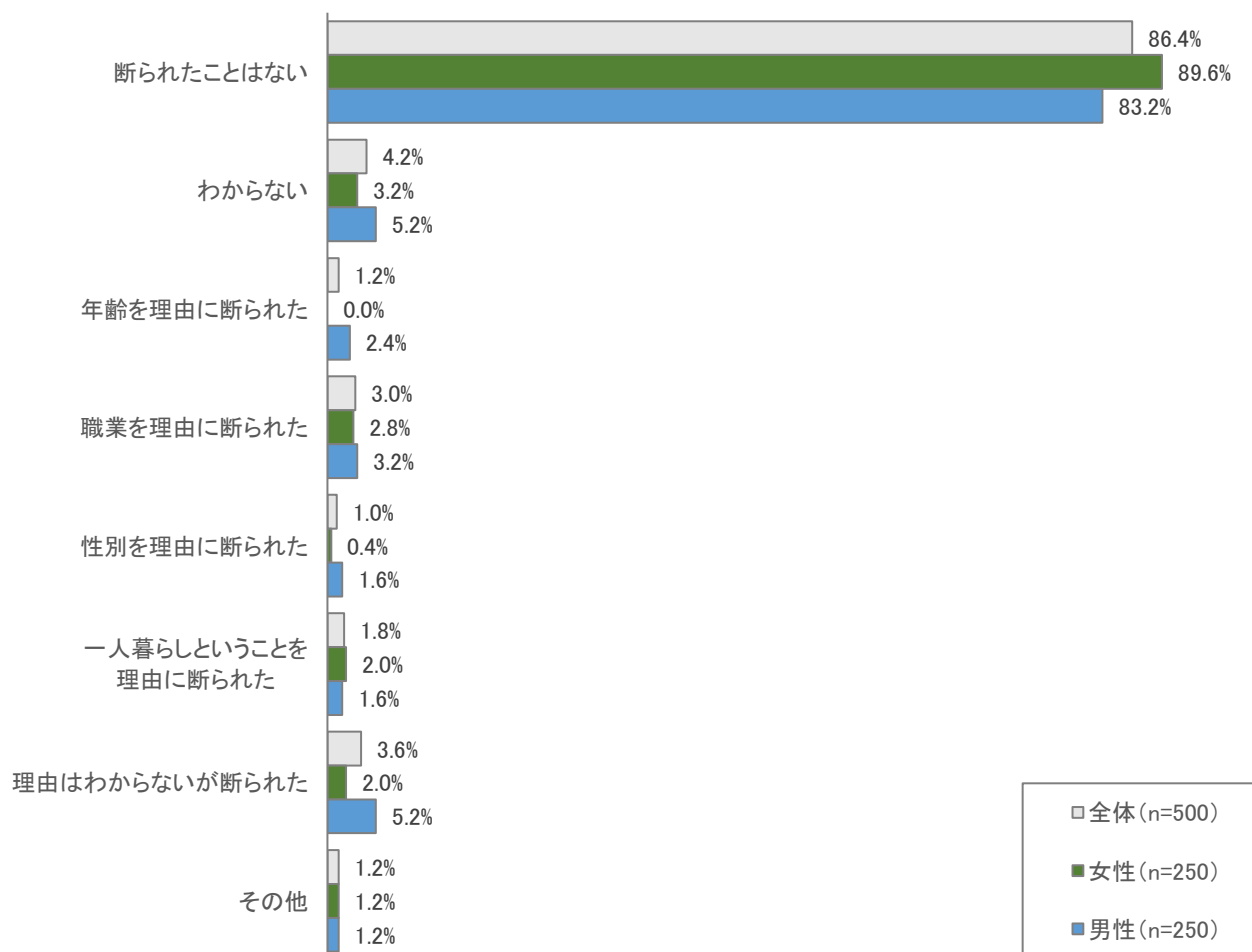
あてはまるものをいくつでもお答えください。



(18)一人暮らしの住まいを探す際に断られた経験

一人暮らしの住まいを探す際に断られた経験については、何らかの理由で断られた経験があるのは13.6%となっている。

図表 28：Q19.今まで、一人暮らしの住まいを探す際に、以下のような理由で断られたことがありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

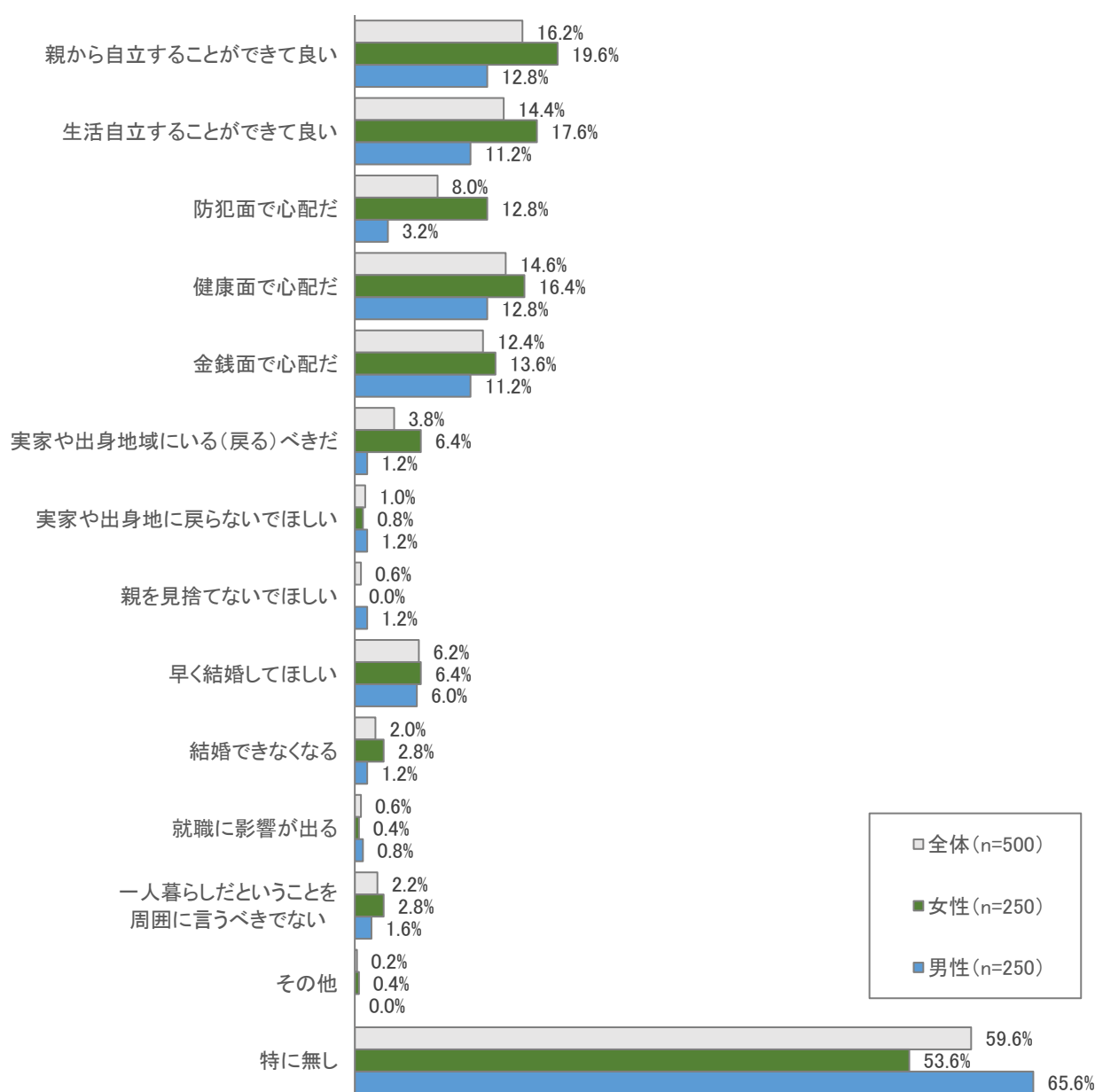


(19)一人暮らしについて家族や周囲から言われたこと

一人暮らしについて家族や周囲から言われたことは、全体では 40.4%が言われた経験があり、具体的に言われたことでは「親から自立することができて良い」が 16.2%で最も高い。

女性については 46.4%が言われた経験があり、男性より 12 ポイント高くなっている。具体的には、「親から自立することができてよい」「生活自立することができてよい」など肯定的なことを言われた割合が男性よりも高い一方、「実家や出身地にいる（戻る）べきだ」「（一人暮らしをすると）結婚できなくなる」など否定的なことを言われた割合も、女性のほうが高い。

図表 29：Q20.一人暮らしをすることについて、これまでに家族や周囲から、以下のように言われたことがありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

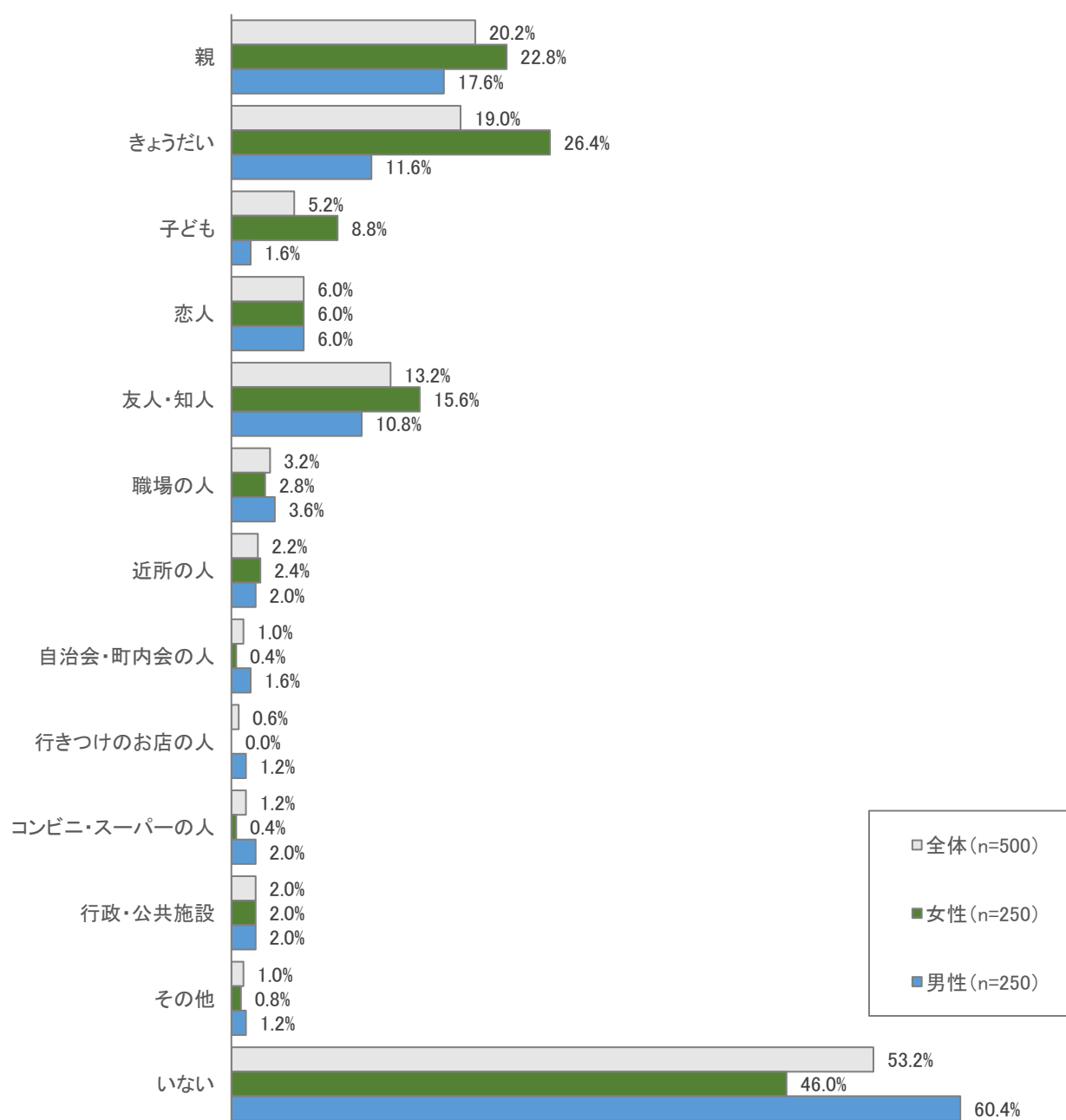


(20)病気の時に頼れる相手

病気の時に頼れる相手は全体では「いない」が 53.2%と過半数になっている。頼れる相手では「親」20.2%と「きょうだい」19.0%となっている。

女性では「いない」が 46.0%となっているのに対し、男性では 60.4%と女性よりも 14 ポイント以上高い。

図表 30：Q21.あなたが病気になった時の看病や食料の運搬について、頼れる相手はいますか。
あてはまるものをいくつでもお答えください。

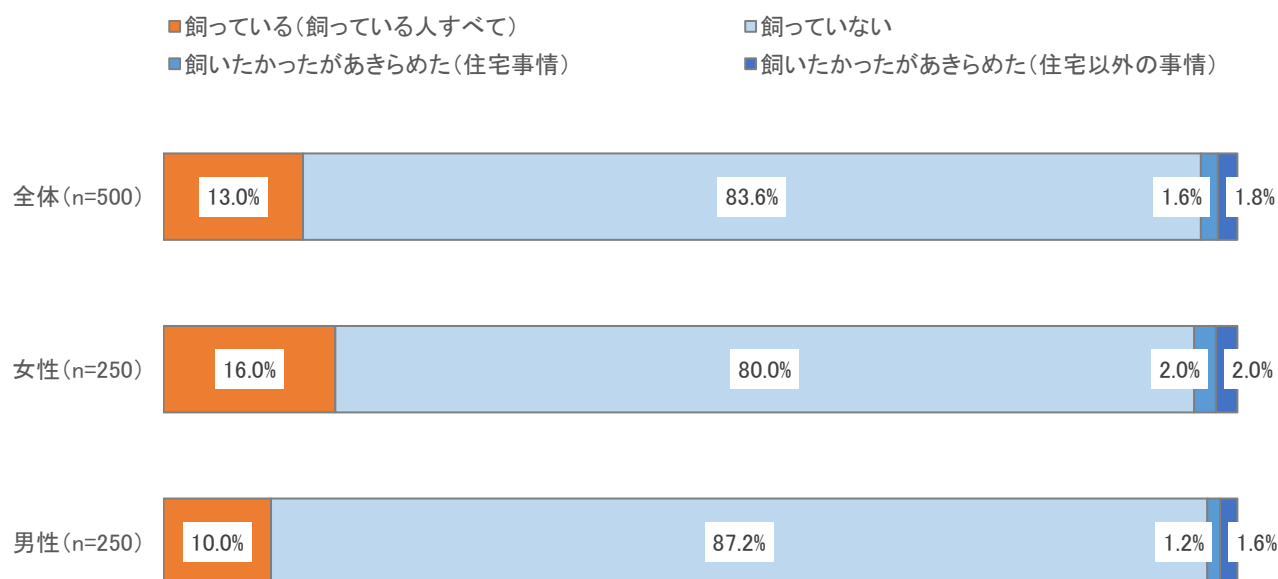


(21)ペットの飼育状況

ペットの飼育については、全体では「飼っている（飼っている人すべて）」が 13.0%となっている。なお「飼いたかったがあきらめた（住宅事情）」は 1.6%となっている。

女性では「飼っている（飼っている人すべて）」は 16.0%と男性より 6 ポイント高い。なお、今後の住まいについての不安を聞いた設問 Q23（P43）において「ペットと住める家を探せないこと」との回答が 5%あった。

図表 31：Q4.あなたは現在、ペットを飼っていますか。あてはまるものをお答えください。



飼っているペットについても、女性では「犬」が 7.6%で男性より 4 ポイント以上、「猫」が 2 ポイント高くなっている。また、飼育しているペットの種別については男女差は見られなかった。

図表 32：Q4.あなたは現在、ペットを飼っていますか。あてはまるものをお答えください。

		合計	犬	猫	魚	鳥	うさぎ	ハムスター	爬虫類	その他の動物	飼いたかったがあきらめた(住宅事情)	飼いたかったがあきらめた(住宅以外の事情)	飼っていない	不明
全体		500 100.0%	27 5.4%	27 5.4%	13 2.6%	12 2.4%	6 1.2%	7 1.4%	6 1.2%	0 0.0%	9 1.8%	8 1.6%	418 83.6%	0 0.0%
性別	女性	250 100.0%	19 7.6%	16 6.4%	5 2.0%	7 2.8%	3 1.2%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	5 2.0%	5 2.0%	200 80.0%	0 0.0%
	男性	250 100.0%	8 3.2%	11 4.4%	8 3.2%	5 2.0%	3 1.2%	7 2.8%	5 2.0%	0 0.0%	4 1.6%	3 1.2%	218 87.2%	0 0.0%

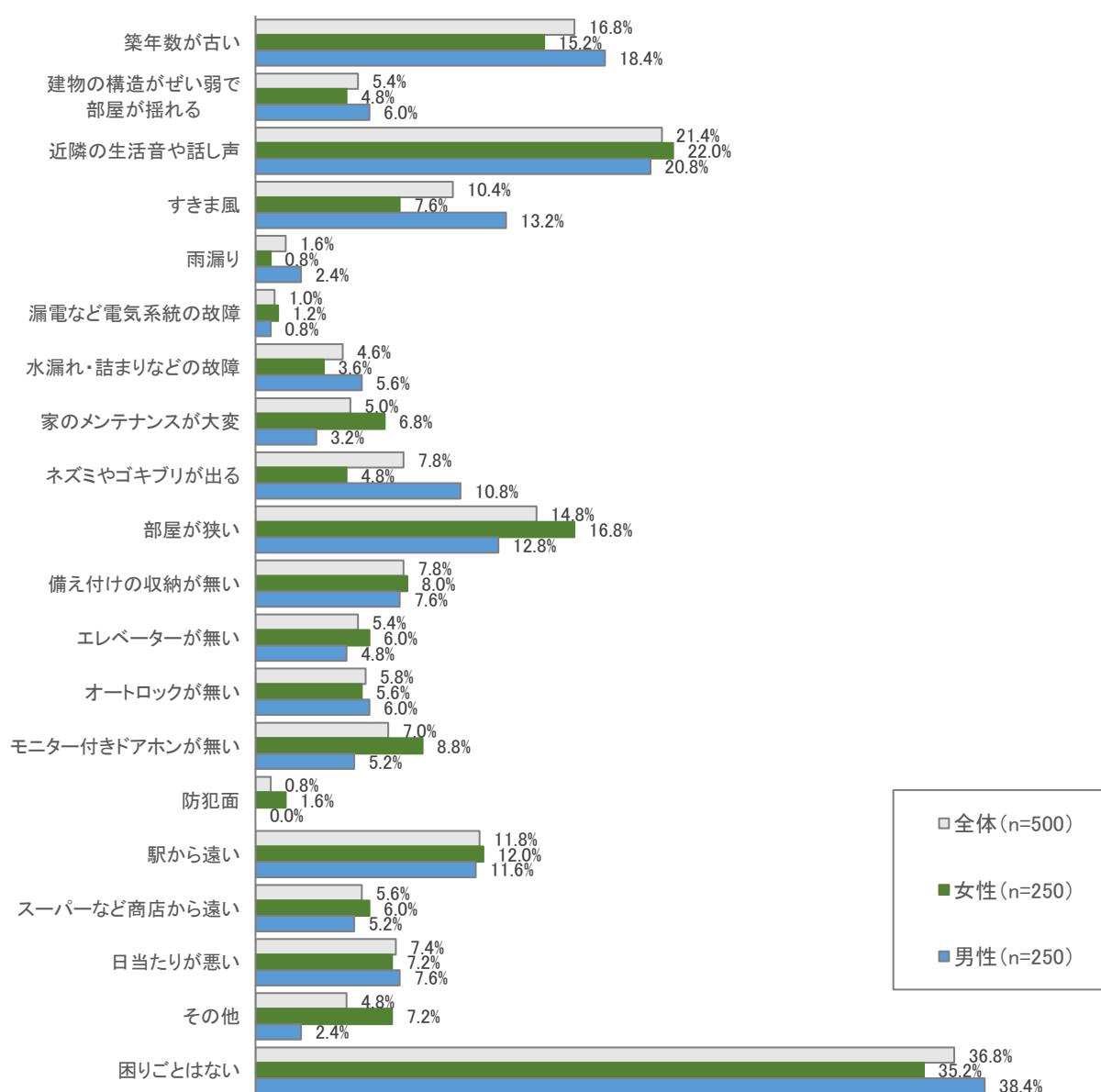
(22)住まいについて困っていること

住まいについて困っていることは、全体では 63.2%が何らかの困りごとがあると回答している。具体的な内容では「近隣の生活音や話し声」21.4%や、「築年数が古い」16.8%などで高くなっている。

女性では 64.8%が何らかの困りごとがあると回答し、男性より 3 ポイントほど高い。また、「近隣の生活音や話し声」が 22.0%で最も高く、次いで「部屋が狭い」が 16.8%で高くなっている。「防犯面」は男性が 0.0%だったのに対し、女性は 1.6%で、具体的には「人通りが少ない」等の記載があった。

図表 33：Q22.住まいについて、あなたがお困りだと感じていることはありますか。

あてはまるものをいくつでもお答えください。



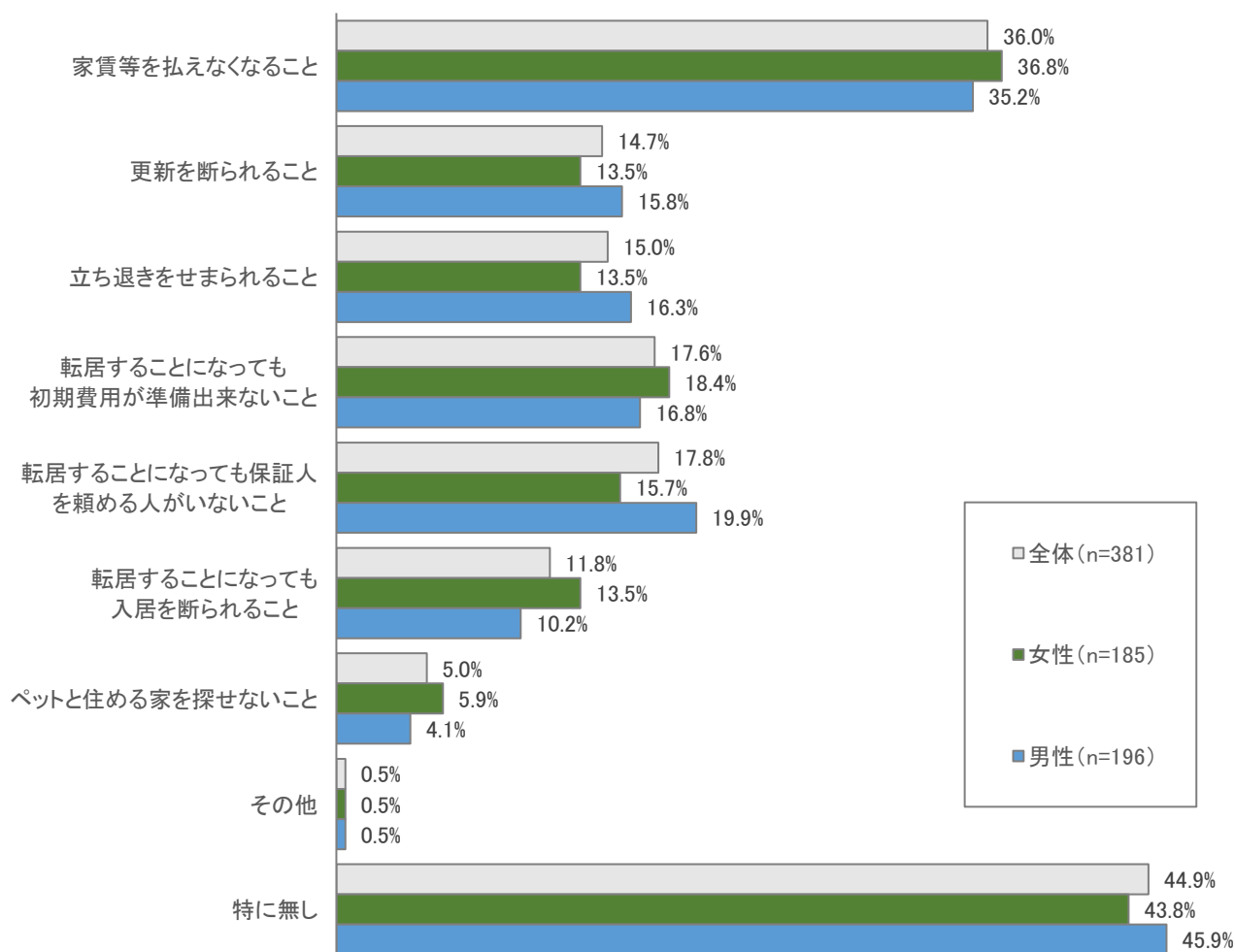
(23)今後の住まいについての不安だと思うこと

持ち家以外の 381 人（女性 185 人/男性 196 人）を対象として、今後の住まいの不安について質問している。その結果をみると全体では過半数が不安を感じていることが分かる。具体的な内容では「家賃等を払えなくなること」が 36.0%で最も高い。

女性では、56.2%が不安を感じている。具体的には「家賃等を払えなくなること」が 36.8%で最も高く、次いで「転居することになっても初期費用が準備できないこと」18.4%となっている。

一方、男性では、54.1%が不安を感じている。具体的には「家賃等を払えなくなること」が 35.2%、「転居することになっても保証人を頼める人がいないこと」が 19.9%となっている。

図表 34：Q23.持ち家以外にお住まいの方にお聞きます。今後の住まいについて、不安だと思うことはありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

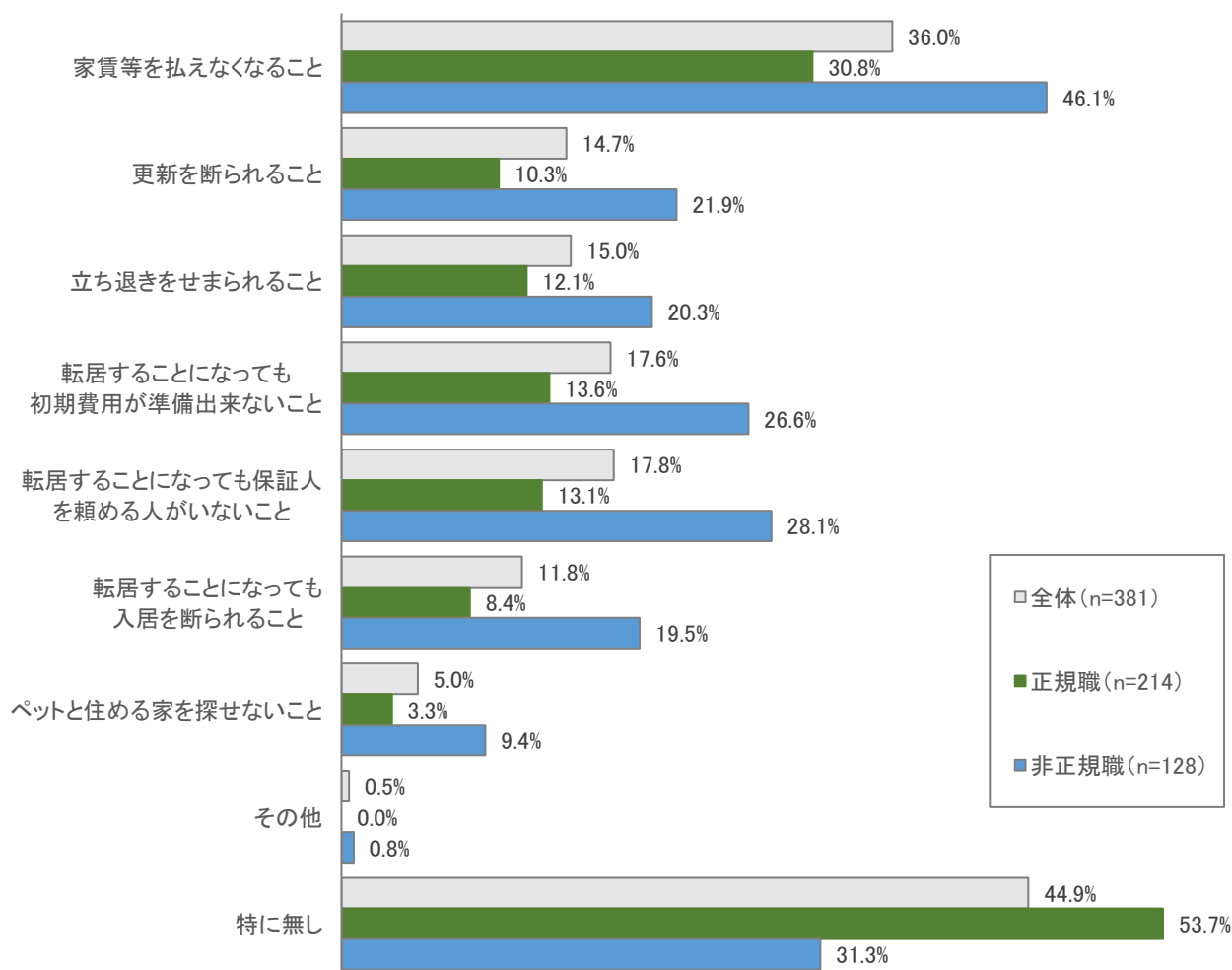


今後の住まいの不安について、主な就業形態別に比較すると、正規では不安を感じているのは46.3%であるのに対し、非正規では68.7%と7割近くが不安を感じている。また、全ての項目で非正規の方が正規よりポイントが高かった。

正規では「家賃等を払えなくなること」が30.8%で最も高く、3割を超えている。次いで「転居することになっても初期費用が準備出来ないこと」の13.6%、「転居することになっても保証人を頼める人がいないこと」の13.1%が続いている。

非正規でも「家賃等を払えなくなること」が46.1%と最も高く、正規と比較して15ポイント以上高くなっている。次いで「転居することになっても保証人を頼める人がいないこと」の28.1%、「転居することになっても初期費用が準備出来ないこと」の26.6%が続いている。この2項目についても正規よりも不安を感じている割合が高い。

図表 35：Q23.持ち家以外にお住まいの方にお聞きします。今後の住まいについて、不安だと思うことはありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。(主な就業形態別)

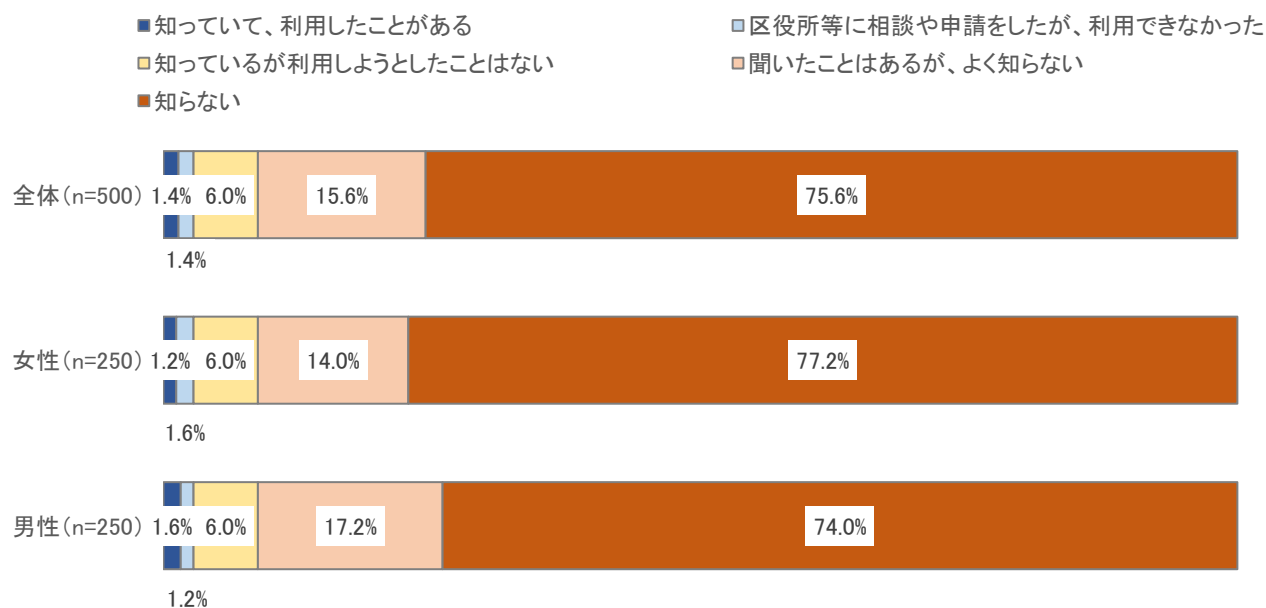


(24)住居確保給付金制度の認知と利用経験

住居確保給付金制度について、全体では「知らない」が 75.6%と約 3/4 を占めている。さらに、「知っていて、利用したことがある」は 1.4%である。

女性についてみても傾向は同様に、「知らない」が 77.2%となっており、「知っていて、利用したことがある」は 1.2%である。

図表 36：Q24.あなたは住居確保給付金制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。

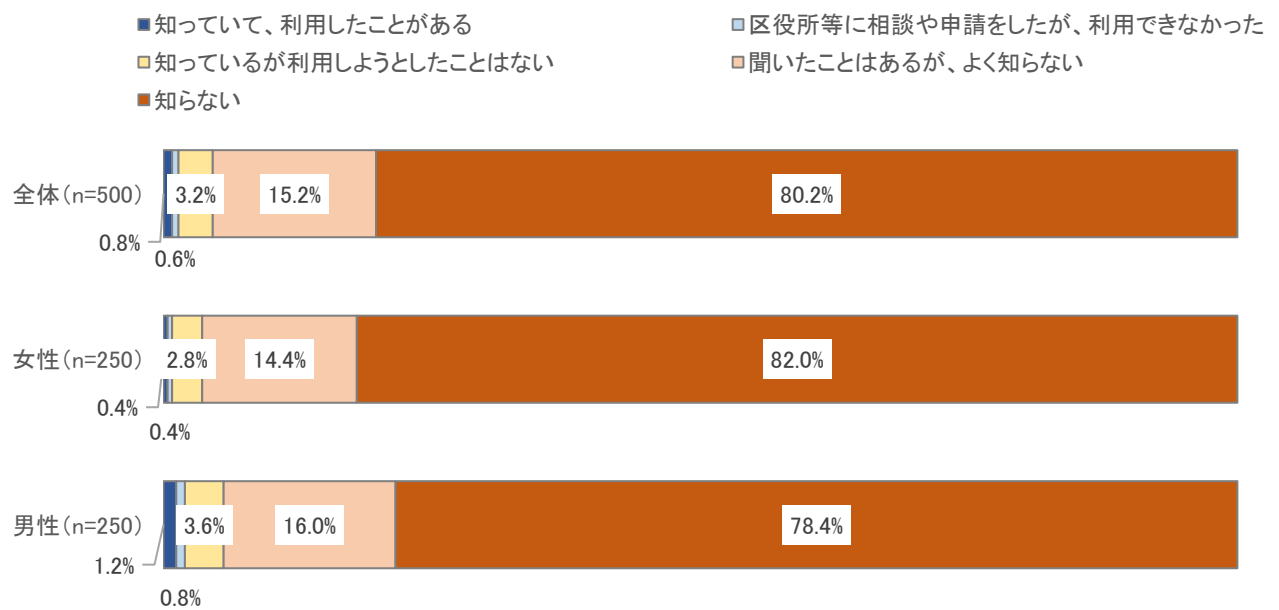


(25)セーフティネット住宅制度の認知と利用経験

セーフティネット住宅制度について、全体では「知らない」が 80.2%と高い。さらに、「知っていて、利用したことがある」は 0.8%である。

女性についてみても傾向は同様に、「知らない」が 82.0%となっており、「知っていて、利用したことがある」は 0.4%である。(24) の住居確保給付金制度と同様、制度について女性の方が男性に比べ「知らない」との回答が若干多い。

図表 37： Q25.セーフティネット住宅制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。

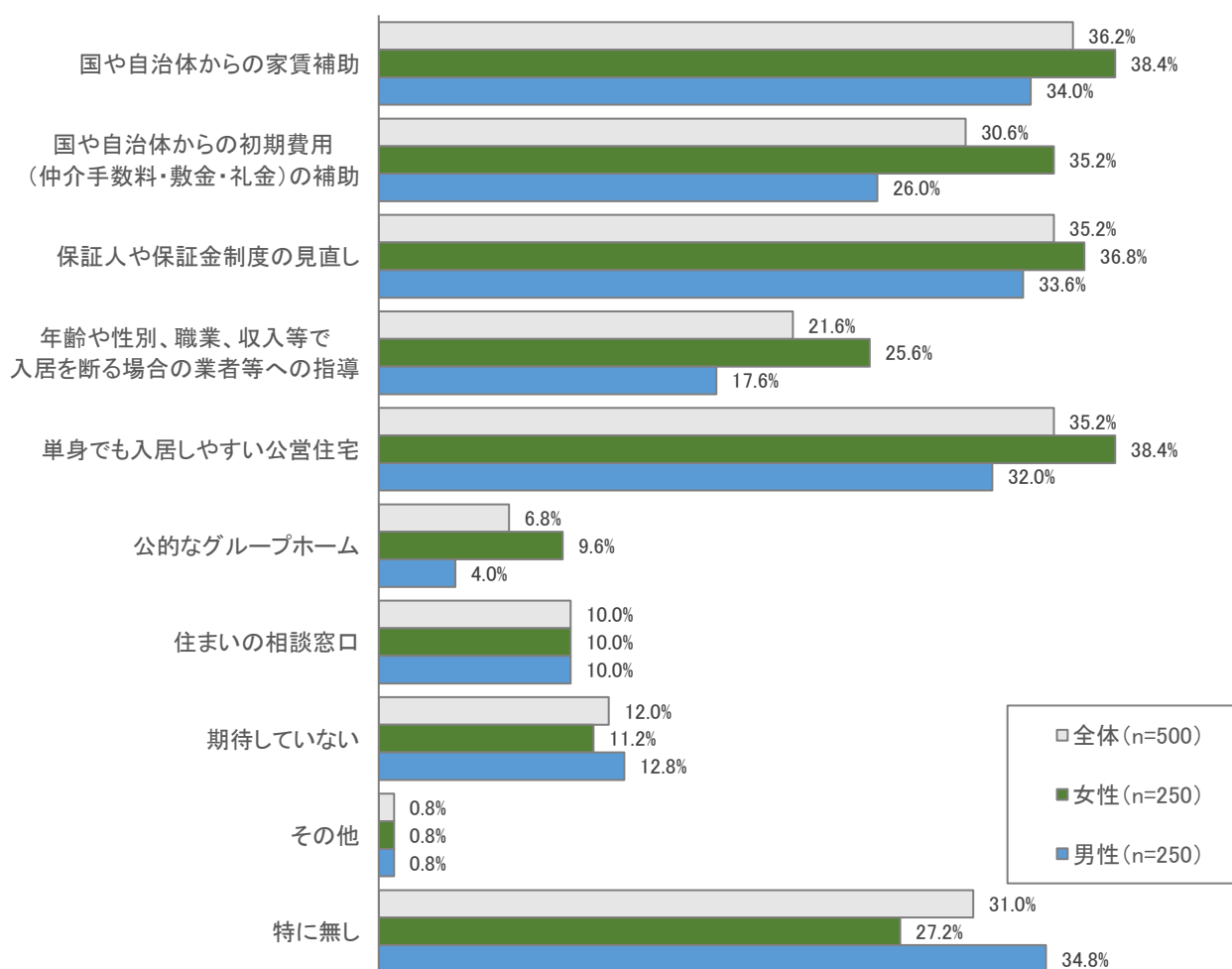


(26)単身者への住まいのサポートとして利用したいこと

単身者への住まいのサポートとして利用したいことについて、全体では 69.0%は利用したいサポートがあることがわかる。「国や自治体からの家賃補助」が 36.2%で最も高く、次いで「保証人や保証金制度」と「単身でも入居しやすい公営住宅」がいずれも 35.2%となっている。

女性では利用したいサポートがある割合が 72.8%となっている。具体的には、「国や自治体からの家賃補助」と「単身でも入居しやすい公営住宅」がいずれも 38.4%で、次いで「保証人や保証金制度」が 36.8%となっている。「国や自治体からの初期費用（仲介手数料・敷金・礼金）の補助」や「年齢や性別、職業、収入等で入居を断る業者等への指導」では男性との差が大きくなっている。

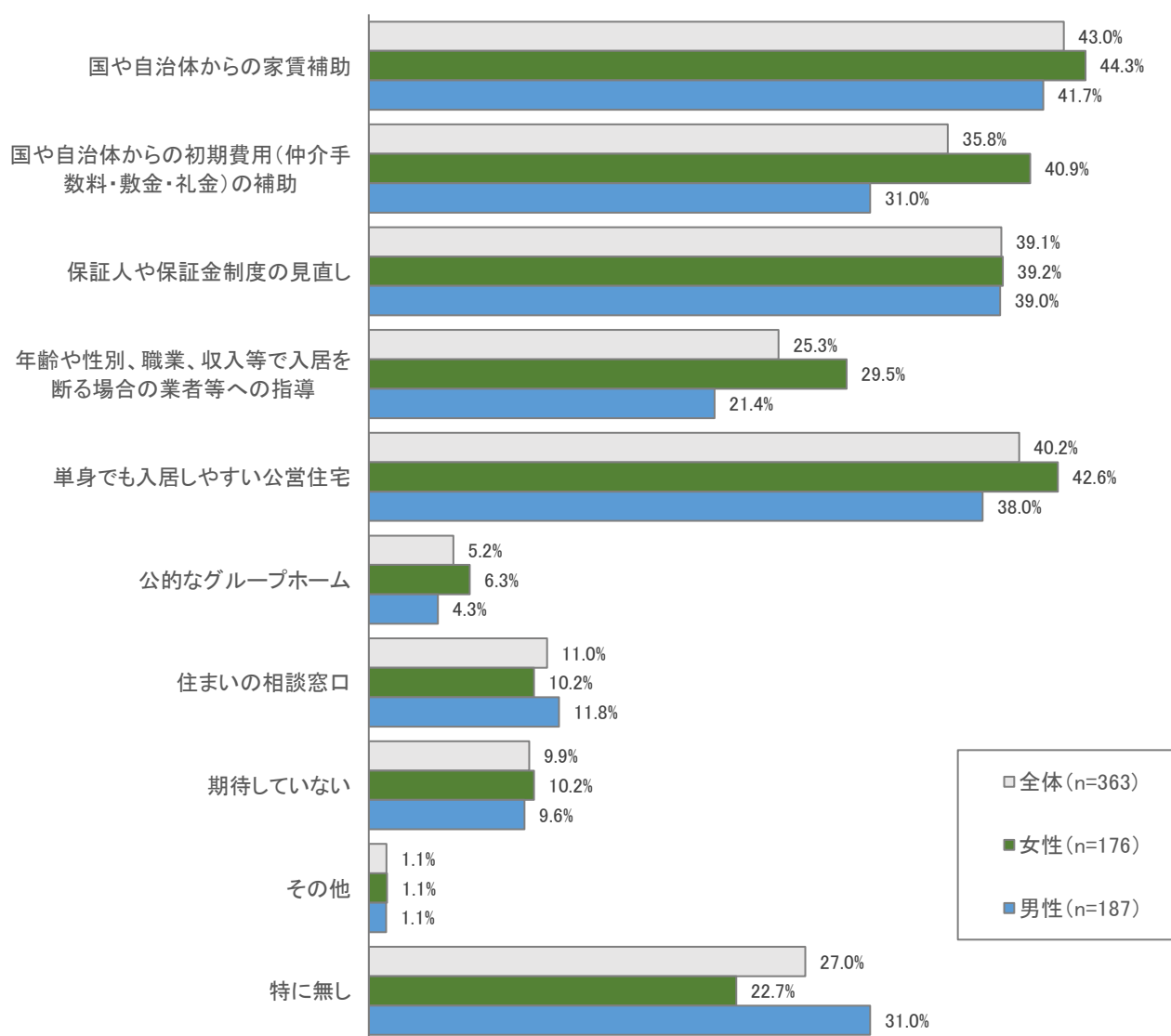
図表 38：Q26.現在、単身者への住まいのサポートが無い中で、今後、国や自治体からの公的なサポートや仕組み等で、利用してみたいものや充実してほしいと感じるものについてお答えください。あてはまるものをいくつでもお選びください。



住まいのサポートとして利用したいことについて、賃貸住宅居住者（公営賃貸住宅、社宅・寮を除く）のみでみると、全体で 73.0%は利用したいサポートがあることがわかる。全対象者の回答より 4 ポイント以上高い。

女性では 77.3%が利用したいサポートがあることがわかり、具体的には「国や自治体からの家賃補助」が 44.3%で最も高く、「单身でも入居しやすい公営住宅」の 42.6%、「国や自治体からの初期費用の補助」の 40.9%と続いている。特に「国や自治体からの初期費用の補助」は男性よりも 10 ポイント近く高くなっている。

図表 39：Q26.現在、单身者への住まいのサポートが無い中で、今後、国や自治体からの公的なサポートや仕組み等で、利用してみたいものや充実してほしいと感じるものについてお答えください。あてはまるものをいくつでもお選びください。
（賃貸居住者（公営賃貸住宅、社宅・寮を除く）のみ）



(27)一人暮らしの住まいについて思うこと（自由回答）

一人暮らしの住まいについて思うことを自由回答形式で質問している。これに対して「特に無し」や、「無し」等を除き、何らかの記述のあった回答数は 500 人中 491 人となっている。

主な内容を整理、抜粋したものが次のとおりである。防犯についての自由回答は全て女性であった。

<主な意見>

■自由、気楽

- ・ 自由になる時間がなかったので、一人暮らしは気楽（30 代後半、女性）
- ・ 気楽で良い（40 代後半、男性）
- ・ のびのびしてストレスがなく良い（50 代後半、女性）
- ・ 自由で良い（50 代後半、男性）

■不安

- ・ 将来的に収入の低さで入居を断られそうで不安（30 代後半、女性）
- ・ 今は良いが、もっと歳を重ねたとき、入居出来るアパートがあるか不安。また、死んだときの対処も不安（50 代前半、女性）
- ・ 年齢を重ねるごとに不安が増えていく（50 代後半、男性）

■病気

- ・ 病気したときは寂しい（30 代後半、女性）
- ・ 災害や怪我・病気・高齢になったときの助けが不安（50 代後半、女性）
- ・ 病気の時に助けてもらう人がいない（50 代後半、男性）

■老後

- ・ 高齢になっても安心して暮らしたい（40 代後半、女性）
- ・ 今は良いけど老後が不安（50 代後半、男性）

■孤独死

- ・ 孤独死は覚悟しているものの、発見までに日にちが経ってしまったら、事故物件になってしまうのかと不安（50 代前半、女性）
- ・ 孤独死が不安（50 代後半、男性）

■防犯

- ・ 防音、防犯が充実している家に住みたい（40 代前半、女性）
- ・ 防犯が気になる（40 代後半、女性）
- ・ 消防点検などで部屋の中まで入ってこられるのに抵抗がある（50 代前半、女性）

■家賃

- ・ 収入に対しての家賃割合が高い（40 代前半、女性）
- ・ 絶対的に家賃が高い（40 代前半、男性）
- ・ 物価はどんどん上がるが、家賃はなかなか下がらない（40 代後半、女性）
- ・ 老後家賃が払えるか（50 代前半、女性）

■頼れる人の不在

- ・ 都会だと近所付き合いもないので、何かあった時不安（50 代前半、女性）
- ・ 気楽さを重視すると、何かあった時気付かれない不安（50 代前半、女性）
- ・ いざという時、頼れる人が少ない（50 代後半、女性）

■今後の住まいへの不安

- ・ 将来的に収入の低さで入居を断られそうで不安（30 代後半、女性）
- ・ 保証人とかいない人はどうしたらいいんだろう。親が亡くなったりしたら頼む人がいない（40 代前半、女性）
- ・ 高齢になった時賃貸契約できるかが心配（50 代前半、女性）
- ・ 保証人を立てなければならぬのが面倒、現在は親だが高齢なので、亡くなった後のことが気になる（50 代前半、女性）
- ・ 年齢が高くなってきているので、新たに賃貸住居に転居する必要に迫られた場合、入居できるところがあるか心配（50 代前半、女性）
- ・ 今は良いが、もっと歳を重ねたとき、入居出来るアパートがあるか不安。また、死んだときの対処も不安（50 代前半、女性）
- ・ 高齢になるにつれ保証人がいないし、借りづらくなると思うと憂鬱（50 代後半、男性）

■住まいのルールや制度への改善希望

- ・ 保証会社に加入しなくてはならないのがネック（30 代後半、女性）
- ・ 更新料を払うのが負担に感じる（40 代前半、女性）
- ・ 契約更新時にいちいち住民票を提出しなければならないのがわずらわしい（40 代後半、男性）
- ・ 敷金礼金のしきたりが、意味が分からない（40 代後半、男性）
- ・ 一人暮らし＝狭い部屋で良い という考え方を改めて欲しい（50 代後半、女性）

■制度などへの要望

- ・ 保証人はともかく、緊急連絡先を求める規則の見直しは必要だと思う（30 代後半、男性）
- ・ 人口減などで空き住居が増えると思うので、ファミリー向けかつ空き期間が長い住居を単信向けに安い家賃で居住させてほしい（40 代後半、女性）
- ・ 公団を 1 人用では借りにくい（40 代後半、女性）
- ・ 行政の補助等がどのようなものがあるのか、こちらが積極的に調べなければ、何もわからないし、ちょっと不親切だと感じる（50 代前半、男性）
- ・ ペットを複数飼える物件が少なすぎるので、まずは改善してほしい。公的な補助を積極的に使えるようにしてほしい（50 代前半、男性）
- ・ 60 歳以上の単身世帯に対して、生活保護にならないためにも、それ以前で食い止められるような補助があるとありがたい。金利の低い貸付金があると嬉しい（60 代前半、女性）
- ・ 税負担が重い（60 代前半、男性）

Ⅲ 監修者考察

監修者考察

本調査は、これまで住宅政策から排除されてきた単身世帯、なかでも、単身女性の住宅問題とそのニーズを可視化し、それへの支援の必要性を提言することを目的として実施されたものである。

ライフコースが画一的だった時代、人々は標準と言われる家族を形成し、持家所有に向かい、こぞって住まいのグレードアップを図った。いうまでもなく、その所有者は安定した収入を得る男性＝夫であり、女性＝妻は、よくもわるくも、結婚という手段によって住まいを確保することが一般的であった。

しかし、生涯未婚率、離婚率の上昇による単身世帯の増加をはじめ、雇用の非正規化の急速な進行は、婚姻を前提とした居住保障システムを崩壊させ、女性たちの居住の貧困を露呈させることにつながった。

本来、低所得階層を支援するはずの公営住宅については、ほとんどの自治体が単身入居を認めてはいない。そのため、単身者の現実的な住まいの選択肢は、市場の3割を占める民間賃貸住宅にならざるをえず、本調査でも回答者の約7割がこれに居住していた。しかし、公的な介入が一切ない民間の賃貸住宅では、低家賃住宅は低質で、低所得者にとってその住居費負担は高くなることが指摘されてきた。

本調査では、その傾向が色濃くあらわれる結果となった。住宅が古い、狭い、生活音が漏れるなどといった不満が挙がる一方で、住居費負担率（月収に占める住居費の割合）が30%を超えるケースが3割、更に、半数以上が家賃の支払いを負担に感じていた。なお、この支払を維持するために、食費や水道光熱費を節約するという回答は多く、なかには医療費を削るという深刻な事例もあった。

今後の住宅の不安については、非正規職からの回答が多く、特に、家賃が支払えなくなることや転居時の初期費用や保証人の確保ができないことを不安に感じるなど、窮迫した実情が把握された。

なお、単身女性の住まいのニーズに特化してみると、「防犯」の重要性が顕著に浮かび上がった。女性回答者の2割が住宅に「侵入」された危険や不安を感じた経験を有し、このほか、声掛けつきまとい、盗難や盗撮など、ほとんどの項目で女性の回答が男性のそれを上回った。これらの経験からか、女性の約6割が、防犯上2階以上の住まいを選ぶとしており、その他、オートロックやモニター付きインターフォンに対するニーズの高さも明らかになった。住宅の設備以外にも、交通機関から近い住まいを選ぶ、人通りの多い道を歩くなど、立地条件は防犯面で欠かせない要素となる。概してこれらを兼ねそろえた住宅の家賃は高額となることも指摘しておかなければならない。

今後、未婚化は一層加速することが予測され、住宅政策もこの傾向ともはや無関係ではいられない。家族支援的側面の強い現行施策のありかたを今一度見直し、個人単位の居住保障の構築が求められることは言うまでもない。家族がいても一人暮らしでも、安心安全に暮らせる社会の実現にむけて。本調査がその実現の一助となれば幸いである。

葛西リサ（追手門学院大学准教授）

IV 資料

1 アンケート調査票²²

(1)予備調査（スクリーニング調査）・調査項目

【神奈川県での生活に関するアンケート】

Q1.あなたの性別をお答えください

- 1.男性 2.女性 3.その他

Q2.現在あなたがお住まいの市町村についてお答えください。

- 1.横浜市 2.川崎市 3.相模原市 4.上記以外の市 5.市以外の町村
6.神奈川県以外

Q3.現在、あなたはどなたと暮らしていますか。もっともあてはまるものを一つ選んでください。

- 1.一人暮らし（配偶者無し） 2.一人暮らし（配偶者あり） 3.家族と暮らしている
4.恋人と暮らしている 5.友人と暮らしている 6.その他

Q4.あなたの職業についてお答えください。

- 1.学生 2.正社員・正規職員 3.パート・アルバイト 4.契約・嘱託
5.派遣社員 6.非常勤 7.業務請負 8.個人事業主（自営業）
9.自営業手伝い 10.専業主婦・専業主夫
11.一時的に無職（派遣労働の更新期間の間等） 12.無職（年金のみの生活を含む）
13.その他

Q5.あなたの年収（税金などひかれる前の総額）についてお答えください。

※勤務先からのボーナス、手当ても含めてください。

※配当、仕送り、年金、障がい年金など勤労所得以外の収入も含めて下さい。

- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| 1.60万円未満 | 2.60万円～120万円 | 3.120万円～180万円 |
| 4.180万円～300万円 | 5.300万円～400万円 | 6.400万円～600万円 |
| 7.600万円～800万円 | 8.800万円～1000万円 | 9.1000万円以上 |

²² 本調査はオンラインアンケートで実施した。そのため調査項目（質問/回答）を掲載している

(2)本調査・調査項目

【生活に関するアンケート】

Q1.あなたの先月の手取り収入（税金などひかれた後の実際に手元に残るお金）についてお答えください。

(1)手取り収入の総額（単位：円※勤務先からの手当て、配当、仕送り、障がい年金など勤労所得以外の収入も含めて下さい）

[]

(2)手取り収入のうち、勤務先からの住宅手当や家賃補助の金額（単位：円）

[]

Q2.あなたには預貯金や金融資産がどれくらいありますか。その総額についてお答えください。

- | | | | |
|---------------|---------------|-------------|--------------|
| 1.ない | 2.10万円未満 | 3.10～50万円未満 | 4.50～100万円未満 |
| 5.100～300万円未満 | 6.300～500万円未満 | 7.500万円以上 | |
| 8.その他 | | | |

Q3.あなたのこれまでの婚姻状況について、あてはまるものをお答えください。

- | | | | |
|------|-----------|-----------|-------|
| 1.未婚 | 2.結婚したが離婚 | 3.結婚したが死別 | 4.その他 |
|------|-----------|-----------|-------|

Q4.あなたは現在、ペットを飼っていますか。あてはまるものをお答えください。

- | | | | | | | |
|------------------------------------|-----|-----|-----|-------|---------|-------|
| 1.犬 | 2.猫 | 3.魚 | 4.鳥 | 5.うさぎ | 6.ハムスター | 7.爬虫類 |
| 8.その他の動物 9.飼いたかったがあきらめた（住宅事情） | | | | | | |
| 10.飼いたかったがあきらめた（住宅以外の事情） 11.飼っていない | | | | | | |

Q5.あなたが現在の住まいに住んでいる期間についてお答えください。

- | | | | |
|------------|------------|-----------|------------|
| 1.1年未満 | 2.1～5年未満 | 3.5～10年未満 | 4.10～15年未満 |
| 5.15～20年未満 | 6.20～30年未満 | 7.30年以上 | 8.出生時から |
| 9.わからない | | | |

Q6.現在のあなたの住まいの形態・建て方についてお答えください。

- | | | |
|---------------------|------------------------|--------|
| 1.自分で購入した持ち家（戸建て） | 2.自分で購入した持ち家（マンション等） | |
| 3.譲り受けた持ち家（戸建て） | 4.譲り受けた持ち家（マンション等） | |
| 5.民間の賃貸住宅（戸建て） | 6.民間の賃貸住宅（マンション・アパート等） | |
| 7.公営賃貸住宅（県営住宅・市営住宅） | 8.UR等の賃貸住宅 | 9.社宅・寮 |
| 10.シェアハウス | 11.その他 | |

Q7.現在のあなたの住まいの構造についてお答えください。

- | | | | |
|------|---------------------|---------|-------|
| 1.木造 | 2.鉄骨造・鉄筋（鉄骨）コンクリート造 | 3.わからない | 4.その他 |
|------|---------------------|---------|-------|

Q8.現在のあなたの住まいの床面積についてお答えください。

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1.15㎡未満 | 2.15～25㎡未満 | 3.25～35㎡未満 | 4.35～45㎡未満 |
| 5.45～55㎡未満 | 6.55㎡以上 | 7.その他 | 8.わからない |

Q9.現在のあなたの住まいの間取りについてお答えください。

例) 1R：ワンルーム、1K：1つの部屋とキッチン、1DK（1つの部屋とキッチン・食事をする部屋）、1LDK（1つの部屋とキッチン・食事をする部屋・居間）

- | | | | | | |
|--------|------|-------|---------|---------|--------|
| 1.1R | 2.1K | 3.1DK | 4.1LDK | 5.2K | 6.2DK |
| 7.2LDK | 8.3K | 9.3DK | 10.3LDK | 11.4K以上 | 12.その他 |

Q10.現在のあなたの住まいの築年数についてお答えください。

- | | | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 1.築 10 年未満 | 2.築 10～20 年未満 | 3.築 20～30 年未満 | 4.築 30～40 年未満 |
| 5.築 40～50 年未満 | 6.築 50 年以上 | 7.わからない | |

Q11.先月にあなたが支払った住居費（家賃または住宅ローン等、月々の支払い）はいくらですか。共益費や管理費も含んだ金額でお答えください。

※固定資産税、駐輪場代、駐車場代は含めないでください。住居費がないばあいは 0 をご記入ください

住居費（単位：円） []

Q12.あなたにとって住居費の支払いはどの程度負担になっていますか。

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| 1.まったく負担ではない | 2.あまり負担ではない | 3.どちらともいえない |
| 4.やや負担だ | 5.非常に負担だ | |

Q13.住居費の支払いのために、節約していることはありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

- | | | | | |
|----------|---------|-------------|-----------|--------|
| 1.食費 | 2.水道光熱費 | 3.携帯電話代や通信費 | 4.医療費 | 5.交際費 |
| 6.教養・娯楽費 | 7.被服費 | 8.美容費 | 9.節約していない | 10.その他 |

Q14.新型コロナウイルス感染症拡大により、あなたの収入に変化がありましたか。コロナ前と現在で比較してお答えください。

- | | | | |
|----------|----------|---------|-------|
| 1.収入が減った | 2.収入が増えた | 3.変わらない | 4.その他 |
|----------|----------|---------|-------|

Q15.新型コロナウイルス感染症拡大により、あなたの住まいに関することについて影響が生じたことがありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1.住居費（家賃、住宅ローン等）の負担が重くなった | 3.更新料を滞納した |
| 2.住居費（家賃、住宅ローン等）を滞納した | 5.家賃の安い家を探し、引っ越しをした |
| 4.住宅に関する税金（固定資産税等）を滞納した | 7.郊外に引っ越した |
| 6.テレワークのできる家に引っ越した | 9.その他 |
| 8.職場の近くに引っ越した | 10.特に影響はない |

Q16.現在の住まいを探すときの条件として、家賃や初期費用・広さ・間取り以外で考慮したもののうち、優先順位の高かったものを 5 つまでお答えください。

- | | | |
|---------------|---------------|-------------------|
| 1.築年数 | 2.日当たり | 3.オートロック有 |
| 4.モニター付きドアホン有 | 5.エレベーター有 | 6.2 階以上の階数（防犯のため） |
| 7.ペット可 | 8.防音性 | 9.勤務先への近さ |
| 10.複数路線の利便性 | 11.駅やバス停からの近さ | 12.スーパーなど商店への近さ |
| 13.実家への近さ | 14.医療機関への近さ | 15.図書館への近さ |
| 16.スポーツ施設への近さ | 17.公園への近さ | 18.夜道の明るさ |
| 19.部屋からの景色 | 20.住宅街であること | 21.繁華街であること |
| 22.その他 | 23.特に無し | |

Q17.今まで一人暮らしをしていて、自分の住まいや周辺で、以下のような危険や不安を感じたことがありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

- | | | |
|-----------------|----------------------|----------|
| 1.侵入 | 2.盗難 | 3.盗聴 |
| 4.盗撮 | 5.声かけ・付きまとい | 6.洗濯物の盗難 |
| 7.性被害・痴漢等 | 8.宅配業者や修理業者等との対応時の不安 | |
| 9.不動産業者との対応時の不安 | 10.その他 | 11.特に無し |

Q18.今までに、一人暮らしをする際、防犯上、意識してきたことがありますか。あてはまるものをいくつかもお答えください。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1.オートロックのある住まいを選ぶ | 2.モニター付きドアホンのある住まいを選ぶ |
| 3.2階以上の住まいを選ぶ | 4.駅やバス停から近い住まいを選ぶ |
| 5.行き帰りの夜道が明るい住まいを選ぶ | 6.人通りの多い道を歩く |
| 7.就寝時に窓を閉める | 8.外から家の中が見えない工夫をする |
| 9.複数で住んでいるように装う | 10.防犯グッズを購入する |
| 11.近隣の人とあいさつをしておく | 12.近隣の人にあえてあいさつをしない |
| 13.SNS等で自宅の周辺を投稿しない | 14.一人暮らしだということをあまり言わない |
| 15.その他 | |

Q19.今まで、一人暮らしの住まいを探す際に、以下のような理由で断られたことがありますか。あてはまるものをいくつかもお答えください。

- | | | |
|-----------------|--------------|----------------------|
| 1.断られたことはない | 2.わからない | 3.年齢を理由に断られた |
| 4.職業を理由に断られた | 5.性別を理由に断られた | 6.一人暮らしということを理由に断られた |
| 7.理由はわからないが断られた | 8.その他 | |

Q20.一人暮らしをすることについて、これまでに家族や周囲から、以下のように言われたことがありますか。あてはまるものをいくつかもお答えください。

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1.親から自立することができて良い | 2.生活自立することができて良い |
| 3.防犯面で心配だ | 4.健康面で心配だ |
| 5.金銭面で心配だ | 6.実家や出身地域にいる（戻る）べきだ |
| 7.実家や出身地に戻らないでほしい | 8.親を見捨てないでほしい |
| 9.早く結婚してほしい | 10.結婚できなくなる |
| 11.就職に影響が出る | 12.一人暮らしだということを周囲に言うべきでない |
| 13.その他 | 14.特に無し |

Q21.あなたが病気になった時の看病や食料の運搬について、頼れる相手はいますか。あてはまるものをいくつかもお答えください。

- | | | |
|----------------|-------------|-------------|
| 1.親 | 2.きょうだい | 3.子ども |
| 4.恋人 | 5.友人・知人 | 6.職場の人 |
| 7.近所の人 | 8.自治会・町内会の人 | 9.行きつけのお店の人 |
| 10.コンビニ・スーパーの人 | 11.行政・公共施設 | 12.その他 |
| 13.いない | | |

Q22.住まいについて、あなたがお困りだと感じていることはありますか。あてはまるものをいくつかもお答えください。

- | | | |
|--------------------------------------|--------------------|---------------|
| 1.築年数が古い | 2.建物の構造がぜい弱で部屋が揺れる | 3.近隣の生活音や話し声 |
| 4.すきま風 | 5.雨漏り | 6.漏電など電気系統の故障 |
| 7.水漏れ・詰まりなどの故障 | 8.家のメンテナンスが大変 | 9.ネズミやゴキブリが出る |
| 10.部屋が狭い | 11.備え付けの収納が無い | 12.エレベーターが無い |
| 13.オートロックが無い | 14.モニター付きドアホンが無い | |
| 15.防犯面：具体的に [] | | 16.駅から遠い |
| 17.スーパーなど商店から遠い | 18.日当たりが悪い | 19.その他 |
| 20.困りごとはない | | |

【条件】 Q6.で『5.民間の賃貸住宅（戸建て）』『6.民間の賃貸住宅（マンション・アパート等）』『7.公営賃貸住宅（県営住宅・市営住宅）』『8.UR等の賃貸住宅』『9.社宅・寮』『10.シェアハウス』『11.その他』いずれかを選択した

Q23.持ち家以外にお住まいの方にお聞きします。今後の住まいについて、不安だと思うことはありますか。あてはまるものをいくつかお答えください。

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1.家賃等を払えなくなること | 2.更新を断られること |
| 3.立ち退きをせまられること | 4.転居することになっても初期費用が準備出来ないこと |
| 5.転居することになっても保証人を頼める人がいないこと | |
| 6.転居することになっても入居を断られること | |
| 7.ペットと住める家を探せないこと | 8.その他 9.特に無し |

住居に関する国や自治体の制度について、お聞きします。

Q24.あなたは住居確保給付金制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。

- 1.知っていて、利用したことがある
- 2.区役所等に相談や申請をしたが、利用できなかった
- 3.知っているが利用しようとしたことはない
- 4.聞いたことはあるが、よく知らない
- 5.知らない

住居に関する国や自治体の制度について、お聞きします。

Q25.セーフティネット住宅制度を知っていますか。また、利用したことがありますか。

- 1.知っていて、利用したことがある
- 2.区役所等に相談や申請をしたが、利用できなかった
- 3.知っているが利用しようとしたことはない
- 4.聞いたことはあるが、よく知らない
- 5.知らない

Q26.現在、単身者への住まいのサポートが無い中で、今後、国や自治体からの公的なサポートや仕組み等で、利用してみたいものや充実してほしいと感じるものについてお答えください。あてはまるものをいくつかお選びください。

- | | | |
|------------------|--------------------------------|------------|
| 1.国や自治体からの家賃補助 | 2.国や自治体からの初期費用（仲介手数料・敷金・礼金）の補助 | |
| 3.保証人や保証金制度の見直し | 4.年齢や性別、職業、収入等で入居を断る場合の業者等への指導 | |
| 5.単身でも入居しやすい公営住宅 | 6.公的なグループホーム | 7.住まいの相談窓口 |
| 8.期待していない | 9.その他 | 10.特に無し |

Q27.一人暮らしの住まいについて思うことをご自由にお書きください。

自由回答

2 集計表

(1)回答者のプロフィール・集計表²³

F1.性別...(SA)

No.	カテゴリ名	n	%
1	男性	250	50.0%
2	女性	250	50.0%
3	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	全体	500	100.0%

F2.年代...(SA)

No.	カテゴリ名	n	%
1	35歳未満	0	0.0%
2	35-39歳	76	15.2%
3	40-44歳	74	14.8%
4	45-49歳	94	18.8%
5	50-54歳	130	26.0%
6	55-59歳	110	22.0%
7	60-64歳	16	3.2%
8	65歳以上	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	全体	500	100.0%

平均	48.57
標準偏差	7.252

F3.現在お住まいの市町村...(SA)

No.	カテゴリ名	n	%
1	横浜市	500	100.0%
2	川崎市	0	0.0%
3	相模原市	0	0.0%
4	上記以外の市	0	0.0%
5	市以外の町村	0	0.0%
6	神奈川県以外	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	全体	500	100.0%

F4.世帯状況...(SA)

No.	カテゴリ名	n	%
1	一人暮らし(配偶者無し)	500	100.0%
2	一人暮らし(配偶者あり)	0	0.0%
3	家族と暮らしている	0	0.0%
4	恋人と暮らしている	0	0.0%
5	友人と暮らしている	0	0.0%
6	その他	0	0.0%
	不明	0	0.0%
	全体	500	100.0%

F5.職業...(SA)

No.	カテゴリ名	n	%
1	学生	0	0.0%
2	正社員・正規職員	282	56.4%
3	パート・アルバイト	58	11.6%
4	契約・嘱託	40	8.0%
5	派遣社員	68	13.6%
6	非常勤	1	0.2%
7	業務請負	1	0.2%
8	個人事業主(自営業)	40	8.0%
9	自営業手伝い	2	0.4%
10	専業主婦・専業主夫	0	0.0%
11	一時的に無職(派遣労働の更新期間の間等)	0	0.0%
12	無職(年金のみの生活を含む)	0	0.0%
13	その他	8	1.6%
	不明	0	0.0%
	全体	500	100.0%

²³ 「F1.性別」について、対象者抽出の予備調査（スクリーニング調査）では「その他」の回答者がいたが対象者としての条件を満たさなかったため、結果的に本調査では「その他」の対象者はいなかった。

(2)本調査・集計表

		合計	平均値	合計	平均値
			Q1(1).月収		Q1(2).住宅手当
全体		410	229,865円	492	9,186円
F1.性別	男性	211	233,025円	244	9,386円
	女性	199	226,513円	248	8,990円

		合計	Q1(1).月収										
			10万円未満	10～15万円	15～20万円	20～25万円	25～30万円	30～35万円	35～40万円	40～45万円	45～50万円	50万円以上	不明
全体		500	18	19	69	146	68	55	17	13	3	2	90
		100.0%	3.6%	3.8%	13.8%	29.2%	13.6%	11.0%	3.4%	2.6%	0.6%	0.4%	18.0%
F1.性別	男性	250	13	13	28	65	37	32	11	8	2	2	39
		100.0%	5.2%	5.2%	11.2%	26.0%	14.8%	12.8%	4.4%	3.2%	0.8%	0.8%	15.6%
	女性	250	5	6	41	81	31	23	6	5	1	0	51
		100.0%	2.0%	2.4%	16.4%	32.4%	12.4%	9.2%	2.4%	2.0%	0.4%	0.0%	20.4%

		合計	Q2.預金・金融資産の保有状況								
			ない	10万円未満	10～50万円未満	50～100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500万円以上	その他	不明
全体		500	96	31	43	50	72	48	153	7	0
		100.0%	19.2%	6.2%	8.6%	10.0%	14.4%	9.6%	30.6%	1.4%	0.0%
F1.性別	男性	250	49	19	25	35	32	21	68	1	0
		100.0%	19.6%	7.6%	10.0%	14.0%	12.8%	8.4%	27.2%	0.4%	0.0%
	女性	250	47	12	18	15	40	27	85	6	0
		100.0%	18.8%	4.8%	7.2%	6.0%	16.0%	10.8%	34.0%	2.4%	0.0%

		合計	Q3.婚姻状況				
			未婚	結婚したが離婚	結婚したが死別	その他	不明
全体		500	397	102	3	0	0
		100.0%	79.4%	20.4%	0.6%	0.0%	0.0%
F1.性別	男性	250	211	39	0	0	0
		100.0%	84.4%	15.6%	0.0%	0.0%	0.0%
女性		250	186	63	3	0	0
		100.0%	74.4%	25.2%	1.2%	0.0%	0.0%

		合計	Q4.現在、ペットを飼っていますか											
			犬	猫	魚	鳥	うさぎ	ハムスター	爬虫類	その他の動物	飼いたかったが あきらめた(住宅事情)	飼いたかったが あきらめた(住宅 以外の事)	飼っていない	不明
全体		500	27	27	13	12	6	7	6	0	9	8	418	0
		100.0%	5.4%	5.4%	2.6%	2.4%	1.2%	1.4%	1.2%	0.0%	1.8%	1.6%	83.6%	0.0%
F1.性別	男性	250	8	11	8	5	3	7	5	0	4	3	218	0
		100.0%	3.2%	4.4%	3.2%	2.0%	1.2%	2.8%	2.0%	0.0%	1.6%	1.2%	87.2%	0.0%
女性		250	19	16	5	7	3	0	1	0	5	5	200	0
		100.0%	7.6%	6.4%	2.0%	2.8%	1.2%	0.0%	0.4%	0.0%	2.0%	2.0%	80.0%	0.0%

		合計	Q4.現在、ペットを飼っていますか(統合)				
			飼っている(飼っている人すべて)	飼っていない	飼いたかったが あきらめた(住宅事情)	飼いたかったが あきらめた(住宅以外)	不明
全体		500	65	418	8	9	0
		100.0%	13.0%	83.6%	1.6%	1.8%	0.0%
F1.性別	男性	250	25	218	3	4	0
		100.0%	10.0%	87.2%	1.2%	1.6%	0.0%
女性		250	40	200	5	5	0
		100.0%	16.0%	80.0%	2.0%	2.0%	0.0%

		合計	Q6.住まいの形態・建て方											
			自分で購入した持ち家(戸建て)	自分で購入した持ち家(マンション等)	譲り受けた持ち家(戸建て)	譲り受けた持ち家(マンション等)	民間の賃貸住宅(戸建て)	民間の賃貸住宅(マンション・アパート等)	公営賃貸住宅(県営住宅・市営住宅)	UR等の賃貸住宅	社宅・寮	シェアハウス	その他	不明
全体		500 100.0%	16 3.2%	72 14.4%	17 3.4%	14 2.8%	9 1.8%	341 68.2%	4 0.8%	13 2.6%	10 2.0%	0 0.0%	4 0.8%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	11 4.4%	28 11.2%	9 3.6%	6 2.4%	6 2.4%	173 69.2%	1 0.4%	8 3.2%	7 2.8%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	5 2.0%	44 17.6%	8 3.2%	8 3.2%	3 1.2%	168 67.2%	3 1.2%	5 2.0%	3 1.2%	0 0.0%	3 1.2%	0 0.0%

		合計	Q6.住まいの形態・建て方(統合)			
			持ち家	賃貸住宅	その他	不明
全体		500 100.0%	119 23.8%	377 75.4%	4 0.8%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	54 21.6%	195 78.0%	1 0.4%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	65 26.0%	182 72.8%	3 1.2%	0 0.0%

		合計	Q7.住まいの構造				
			木造	鉄骨造・ 鉄筋(鉄骨)コンク リート造	わから ない	その他	不明
全体		500 100.0%	137 27.4%	326 65.2%	35 7.0%	2 0.4%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	80 32.0%	152 60.8%	18 7.2%	0 0.0%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	57 22.8%	174 69.6%	17 6.8%	2 0.8%	0 0.0%

		合計	Q8.住まいの床面積								
			15㎡未満	15～25㎡未満	25～35㎡未満	35～45㎡未満	45～55㎡未満	55㎡以上	その他	わからない	不明
全体		500 100.0%	43 8.6%	121 24.2%	110 22.0%	61 12.2%	36 7.2%	68 13.6%	1 0.2%	60 12.0%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	26 10.4%	61 24.4%	57 22.8%	32 12.8%	20 8.0%	30 12.0%	0 0.0%	24 9.6%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	17 6.8%	60 24.0%	53 21.2%	29 11.6%	16 6.4%	38 15.2%	1 0.4%	36 14.4%	0 0.0%

		合計	Q9.住まいの間取り												
			1R	1K	1DK	1LDK	2K	2DK	2LDK	3K	3DK	3LDK	4K以上	その他	不明
全体		500 100.0%	71 14.2%	149 29.8%	40 8.0%	40 8.0%	30 6.0%	58 11.6%	38 7.6%	4 0.8%	22 4.4%	27 5.4%	20 4.0%	1 0.2%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	41 16.4%	65 26.0%	19 7.6%	24 9.6%	14 5.6%	33 13.2%	10 4.0%	4 1.6%	11 4.4%	17 6.8%	12 4.8%	0 0.0%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	30 12.0%	84 33.6%	21 8.4%	16 6.4%	16 6.4%	25 10.0%	28 11.2%	0 0.0%	11 4.4%	10 4.0%	8 3.2%	1 0.4%	0 0.0%

		合計	Q10.築年数							
			築10年未満	築10～20年未満	築20～30年未満	築30～40年未満	築40～50年未満	築50年以上	わからない	不明
全体		500 100.0%	58 11.6%	108 21.6%	86 17.2%	90 18.0%	31 6.2%	33 6.6%	94 18.8%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	17 6.8%	46 18.4%	52 20.8%	44 17.6%	18 7.2%	20 8.0%	53 21.2%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	41 16.4%	62 24.8%	34 13.6%	46 18.4%	13 5.2%	13 5.2%	41 16.4%	0 0.0%

		合計	Q11.先月の居住費(円)							
			0(ない)～ 3万円未 満	3～6万円 未満	6～9万円 未満	9～11万 円未満	11～14万 円未満	14～17万 円未満	17万円以 上	不明
全体		500 100.0	99 19.8	156 31.2	201 40.2	24 4.8	17 3.4	2 0.4	1 0.2	0 0.0
F1.性別	男性	250 100.0	55 22.0	81 32.4	91 36.4	12 4.8	9 3.6	2 0.8	0 0.0	0 0.0
	女性	250 100.0	44 17.6	75 30.0	110 44.0	12 4.8	8 3.2	0 0.0	1 0.4	0 0.0

		合計	Q12.住居費支払の負担感					
			まったく負担ではない	あまり負担ではない	どちらともいえない	やや負担だ	非常に負担だ	不明
全体		500 100.0%	44 8.8%	74 14.8%	116 23.2%	155 31.0%	111 22.2%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	24 9.6%	36 14.4%	63 25.2%	70 28.0%	57 22.8%	0 0.0%
		250 100.0%	20 8.0%	38 15.2%	53 21.2%	85 34.0%	54 21.6%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	20 8.0%	38 15.2%	53 21.2%	85 34.0%	54 21.6%	0 0.0%
		250 100.0%	20 8.0%	38 15.2%	53 21.2%	85 34.0%	54 21.6%	0 0.0%

		合計	Q13.住居費の支払いのために、節約していること										
			食費	水道光熱費	携帯電話代や通信費	医療費	交際費	教養・娯楽費	被服費	美容費	節約していない	その他	不明
全体		500 100.0%	223 44.6%	177 35.4%	129 25.8%	62 12.4%	142 28.4%	85 17.0%	148 29.6%	103 20.6%	160 32.0%	1 0.2%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	114 45.6%	78 31.2%	71 28.4%	36 14.4%	79 31.6%	48 19.2%	72 28.8%	42 16.8%	78 31.2%	1 0.4%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	109 43.6%	99 39.6%	58 23.2%	26 10.4%	63 25.2%	37 14.8%	76 30.4%	61 24.4%	82 32.8%	0 0.0%	0 0.0%

		合計	Q14.新型コロナによる収入の変化				
			収入が 減った	収入が増 えた	変わらな い	その他	不明
全体		500 100.0%	149 29.8%	31 6.2%	316 63.2%	4 0.8%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	86 34.4%	11 4.4%	150 60.0%	3 1.2%	0 0.0%
		250 100.0%	63 25.2%	20 8.0%	166 66.4%	1 0.4%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	63 25.2%	20 8.0%	166 66.4%	1 0.4%	0 0.0%
		250 100.0%	63 25.2%	20 8.0%	166 66.4%	1 0.4%	0 0.0%

		合計	Q15.新型コロナにより、住まいについて影響が生じたこと										
			住居費 (家賃、住 宅ローン 等)の負 担が重く した	住居費 (家賃、住 宅ローン 等)を滞納 した	更新料を 滞納した	住宅に関 する税金 (固定資 産税等)を 滞納した	家賃の安 い家を探 し、引っ越 しをした	テレワー クのでき る家に 引っ越し した	郊外に 引っ越し した	職場の近 くに引っ越 した	その他	特に影響 はない	不明
全体		500 100.0%	49 9.8%	10 2.0%	8 1.6%	5 1.0%	5 1.0%	5 1.0%	1 0.2%	3 0.6%	8 1.6%	425 85.0%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	27 10.8%	6 2.4%	6 2.4%	4 1.6%	4 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.8%	6 2.4%	207 82.8%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	22 8.8%	4 1.6%	2 0.8%	1 0.4%	1 0.4%	5 2.0%	1 0.4%	1 0.4%	2 0.8%	218 87.2%	0 0.0%

		合計	Q16 現在の住まいを探すとき優先順位の高いもの(5つまで)											
			築年数	日当たり	オートロック有	モニター付きドアホン有	エレベーター有	2階以上の階数(防犯のため)	ベット可	防音性	勤務先への近さ	複数路線の利便性	駅やバス停からの近さ	スーパーなど商店への近さ
全体		500 100.0%	105 21.0%	177 35.4%	68 13.6%	41 8.2%	34 6.8%	145 29.0%	30 6.0%	55 11.0%	145 29.0%	76 15.2%	230 46.0%	176 35.2%
F1.性別	男性	250 100.0%	33 13.2%	74 29.6%	22 8.8%	6 2.4%	11 4.4%	38 15.2%	10 4.0%	27 10.8%	87 34.8%	38 15.2%	85 34.0%	89 35.6%
	女性	250 100.0%	72 28.8%	103 41.2%	46 18.4%	35 14.0%	23 9.2%	107 42.8%	20 8.0%	28 11.2%	58 23.2%	38 15.2%	145 58.0%	87 34.8%

		合計	Q16 現在の住まいを探すとき優先順位の高いもの(5つまで)											
			実家への 近さ	医療機関 への近さ	図書館へ の近さ	スポーツ 施設への 近さ	公園への 近さ	夜道の明 るさ	部屋から の景色	住宅街で あること	繁華街で あること	その他	特に無し	不明
全体		500 100.0%	37 7.4%	18 3.6%	6 1.2%	10 2.0%	7 1.4%	19 3.8%	28 5.6%	45 9.0%	3 0.6%	20 4.0%	74 14.8%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	9 3.6%	12 4.8%	2 0.8%	6 2.4%	4 1.6%	3 1.2%	11 4.4%	26 10.4%	3 1.2%	10 4.0%	48 19.2%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	28 11.2%	6 2.4%	4 1.6%	4 1.6%	3 1.2%	16 6.4%	17 6.8%	19 7.6%	0 0.0%	10 4.0%	26 10.4%	0 0.0%

		合計	Q17.一人暮らしで感じた危険や不安											
			侵入	盗難	盗聴	盗撮	声かけ・付きまとい	洗濯物の盗難	性被害・痴漢等	宅配業者や修理業者等との対応時の不安	不動産業者との対応時の不安	その他	特に無し	不明
全体		500 100.0%	78 15.6%	50 10.0%	25 5.0%	21 4.2%	32 6.4%	17 3.4%	11 2.2%	33 6.6%	35 7.0%	10 2.0%	347 69.4%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	31 12.4%	23 9.2%	11 4.4%	6 2.4%	8 3.2%	3 1.2%	1 0.4%	8 3.2%	19 7.6%	8 3.2%	186 74.4%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	47 18.8%	27 10.8%	14 5.6%	15 6.0%	24 9.6%	14 5.6%	10 4.0%	25 10.0%	16 6.4%	2 0.8%	161 64.4%	0 0.0%

		合計	Q18.一人暮らしをする際、防犯上、意識してきたこと											
			オートロックのある 住まいを選ぶ	モニター 付きドア ホンのあ る住まい を選ぶ	2階以上 の住まい を選ぶ	駅やバス 停から近 い住まい を選ぶ	行き帰りの 夜道が明 るい住ま いを選ぶ	人通りの 多い道を 歩く	就寝時に 窓を閉め る	外から家 の中が見 えない工 夫をする	複数で住 んでいる ように装 う	防犯グッ ズを購入 する	近隣の人 とあいさ つをしてお く	近隣の人 にあえて あいさつを しない
全体		500 100.0%	116 23.2%	102 20.4%	200 40.0%	140 28.0%	99 19.8%	126 25.2%	175 35.0%	153 30.6%	15 3.0%	33 6.6%	60 12.0%	27 5.4%
F1.性別	男性	250 100.0%	30 12.0%	25 10.0%	58 23.2%	45 18.0%	16 6.4%	17 6.8%	78 31.2%	59 23.6%	3 1.2%	12 4.8%	30 12.0%	12 4.8%
	女性	250 100.0%	86 34.4%	77 30.8%	142 56.8%	95 38.0%	83 33.2%	109 43.6%	97 38.8%	94 37.6%	12 4.8%	21 8.4%	30 12.0%	15 6.0%

		合計	Q18.一人暮らしをする際、防犯上、意識してきたこと			
			SNS等で自宅の周辺を投稿しない	一人暮らしだということをあまり言わない	その他	不明
全体		500 100.0%	66 13.2%	106 21.2%	15 3.0%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	30 12.0%	60 24.0%	14 5.6%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	36 14.4%	46 18.4%	1 0.4%	0 0.0%

		合計	Q19.一人暮らしの住まいを探す際に、以下のような理由で断られたこと							
			断られたことは無い	わからない	年齢を理由に断られた	職業を理由に断られた	性別を理由に断られた	一人暮らしということを理由に断られた	理由はわからないが断られた	その他
全体		500 100.0%	432 86.4%	21 4.2%	6 1.2%	15 3.0%	5 1.0%	9 1.8%	18 3.6%	6 1.2%
F1.性別	男性	250 100.0%	208 83.2%	13 5.2%	6 2.4%	8 3.2%	4 1.6%	4 1.6%	13 5.2%	3 1.2%
	女性	250 100.0%	224 89.6%	8 3.2%	0 0.0%	7 2.8%	1 0.4%	5 2.0%	5 2.0%	3 1.2%

		合計	Q20.一人暮らしについて、家族や周囲から言われたこと											
			親から自立 することが できて 良い	生活自立 することが できて良 い	防犯面で 心配だ	健康面で 心配だ	金銭面で 心配だ	実家や出 身地域に いる(戻 る)べきだ	実家や出 身地に戻 らないで ほしい	親を見捨 てないで ほしい	早く結婚し てほしい	結婚でき なくなる	就職に影 響が出る	一人暮らしだとい うことを周囲 に言うべ きでない
全体		500 100.0%	81 16.2%	72 14.4%	40 8.0%	73 14.6%	62 12.4%	19 3.8%	5 1.0%	3 0.6%	31 6.2%	10 2.0%	3 0.6%	11 2.2%
F1.性別	男性	250 100.0%	32 12.8%	28 11.2%	8 3.2%	32 12.8%	28 11.2%	3 1.2%	3 1.2%	3 1.2%	15 6.0%	3 1.2%	2 0.8%	4 1.6%
	女性	250 100.0%	49 19.6%	44 17.6%	32 12.8%	41 16.4%	34 13.6%	16 6.4%	2 0.8%	0 0.0%	16 6.4%	7 2.8%	1 0.4%	7 2.8%

		合計	Q20.一人暮らしについて、家族 や周囲から言われたこと		
			その他	特に無し	不明
全体		500 100.0%	1 0.2%	298 59.6%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	0 0.0%	164 65.6%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	1 0.4%	134 53.6%	0 0.0%

		合計	Q21.病気時の看病や食料の運搬で頼れる相手											
			親	きょうだい	子ども	恋人	友人・知人	職場の人	近所の人	自治会・町内会の人	行きつけのお店の人	コンビニ・スーパーの人	行政・公共施設	その他
全体		500 100.0%	101 20.2%	95 19.0%	26 5.2%	30 6.0%	66 13.2%	16 3.2%	11 2.2%	5 1.0%	3 0.6%	6 1.2%	10 2.0%	5 1.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	44 17.6%	29 11.6%	4 1.6%	15 6.0%	27 10.8%	9 3.6%	5 2.0%	4 1.6%	3 1.2%	5 2.0%	5 2.0%	3 1.2%
	女性	250 100.0%	57 22.8%	66 26.4%	22 8.8%	15 6.0%	39 15.6%	7 2.8%	6 2.4%	1 0.4%	0 0.0%	1 0.4%	5 2.0%	2 0.8%

		合計	Q21.病気時の看病や食 料の運搬で頼れる相手	
			いない	不明
全体		500 100.0%	266 53.2%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	151 60.4%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	115 46.0%	0 0.0%

		合計	Q22.住まいについて、お困りのこと											
			築年数が 古い	建物の構 造がぜい 弱で部屋 が揺れる	近隣の生 活音や話 し声	すきま風	雨漏り	漏電など 電気系統 の故障	水漏れ・ 詰まりな ど の故障	家のメン テナンス が大変	ネズミや ゴキブリが 出る	部屋が狭 い	備え付け の収納が 無い	エレベ ーターが 無い
全体		500 100.0%	84 16.8%	27 5.4%	107 21.4%	52 10.4%	8 1.6%	5 1.0%	23 4.6%	25 5.0%	39 7.8%	74 14.8%	39 7.8%	27 5.4%
F1.性別	男性	250 100.0%	46 18.4%	15 6.0%	52 20.8%	33 13.2%	6 2.4%	2 0.8%	14 5.6%	8 3.2%	27 10.8%	32 12.8%	19 7.6%	12 4.8%
	女性	250 100.0%	38 15.2%	12 4.8%	55 22.0%	19 7.6%	2 0.8%	3 1.2%	9 3.6%	17 6.8%	12 4.8%	42 16.8%	20 8.0%	15 6.0%

		合計	Q22.住まいについて、お困りのこと								
			オートロッ クが無い	モニター 付きドア ホンが無 い	防犯面	駅から遠 い	スーパー など商店 から遠い	日当たり が悪い	その他	困りごと はない	不明
全体		500 100.0%	29 5.8%	35 7.0%	4 0.8%	59 11.8%	28 5.6%	37 7.4%	24 4.8%	184 36.8%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	15 6.0%	13 5.2%	0 0.0%	29 11.6%	13 5.2%	19 7.6%	6 2.4%	96 38.4%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	14 5.6%	22 8.8%	4 1.6%	30 12.0%	15 6.0%	18 7.2%	18 7.2%	88 35.2%	0 0.0%

		合計	Q23.今後の住まいについて、不安だと思うこと									
			家賃等を払えなくなる こと	更新を断られること	立ち退きをせまられること	転居することになっても初期費用が準備出来ない	転居することになっても保証人を頼める人がいない	転居することになっても入居を断られること	ペットと住める家を探せないこと	その他	特に無し	不明
全体		381 100.0%	137 36.0%	56 14.7%	57 15.0%	67 17.6%	68 17.8%	45 11.8%	19 5.0%	2 0.5%	171 44.9%	0 0.0%
F1.性別	男性	196 100.0%	69 35.2%	31 15.8%	32 16.3%	33 16.8%	39 19.9%	20 10.2%	8 4.1%	1 0.5%	90 45.9%	0 0.0%
	女性	185 100.0%	68 36.8%	25 13.5%	25 13.5%	34 18.4%	29 15.7%	25 13.5%	11 5.9%	1 0.5%	81 43.8%	0 0.0%

		Q24.住居確保給付金制度を知っていますか						
		合計	知っていて、利用したことがある	区役所等に相談や申請をしたが、利用できない	知っているが利用しようとしたことはない	聞いたことはあるが、よく知らない	知らない	不明
全体		500 100.0%	7 1.4%	7 1.4%	30 6.0%	78 15.6%	378 75.6%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	4 1.6%	3 1.2%	15 6.0%	43 17.2%	185 74.0%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	3 1.2%	4 1.6%	15 6.0%	35 14.0%	193 77.2%	0 0.0%

		Q25.セーフティネット住宅制度を知っていますか						
		合計	知っていて、利用したことがある	区役所等に相談や申請をしたが、利用できない	知っているが利用しようとしたことはない	聞いたことはあるが、よく知らない	知らない	不明
全体		500 100.0%	4 0.8%	3 0.6%	16 3.2%	76 15.2%	401 80.2%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	3 1.2%	2 0.8%	9 3.6%	40 16.0%	196 78.4%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	1 0.4%	1 0.4%	7 2.8%	36 14.4%	205 82.0%	0 0.0%

		合計	Q26.国や自治体からの公的なサポートや仕組み等で、利用してみたいものや充実してほしいもの										
			国や自治体からの家賃補助	国や自治体からの初期費用(仲介手数料・敷	保証人や保証金制度の見直し	年齢や性別、職業、収入等で入居を断る場合の	単身でも入居しやすい公営住宅	公的なグループホーム	住まいの相談窓口	期待していない	その他	特に無し	不明
全体		500 100.0%	181 36.2%	153 30.6%	176 35.2%	108 21.6%	176 35.2%	34 6.8%	50 10.0%	60 12.0%	4 0.8%	155 31.0%	0 0.0%
F1.性別	男性	250 100.0%	85 34.0%	65 26.0%	84 33.6%	44 17.6%	80 32.0%	10 4.0%	25 10.0%	32 12.8%	2 0.8%	87 34.8%	0 0.0%
	女性	250 100.0%	96 38.4%	88 35.2%	92 36.8%	64 25.6%	96 38.4%	24 9.6%	25 10.0%	28 11.2%	2 0.8%	68 27.2%	0 0.0%

横浜市の単身世帯の住まいの状況ニーズ調査報告書

～シングル女性の課題を中心に～

2023 年 3 月発行

発行者 公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町 435-1

<https://www.women.city.yokohama.jp/>

担当 事業本部事業企画課 植野ルナ・金涼子